

2016年
平成28年

三重県立総合医療センター年報

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター

平成28年三重県立総合医療センター年報

目 次

1	三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針	1
2	病院の概要	
	(1) 沿革	2
	(2) 施設整備の概要	5
	(3) 学会認定状況	8
	(4) 組織機構図	9
	(5) 職種別定数及び現在員数	10
3	各診療科・部門の概要	
	(1) 診療部（各診療科診療実績）	11
	(2) 看護部	41
	(3) 中央放射線部	46
	(4) 中央検査部	47
	(5) 薬剤部	48
	(6) 栄養管理室	49
	(7) 地域連携課	51
	(8) 医療安全管理部	55
	(9) 学会・研究会発表及び論文発表実績	60
4	統計データ	
	(1) 患者統計	83
	(2) 病歴管理室統計	86
	(3) 図書蔵書状況	97

1 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様の理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえで受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

2 病院の概要

(1) 沿革

昭和23年	8月	三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し、「三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院」として発足 初代院長・渡辺篤就任 病床数：113床
25年	4月	塩浜病院乙種看護婦養成所を設立
	6月	第二代院長・高安正夫就任
	12月	生活保護法に基づく保険医療機関指定 病床数：134床（普通病床：99床、結核病床：35床）許可
27年		借用中の国有財産（土地：7,270坪、建物：18棟1,809坪）を譲受
28年	2月	第6病棟（木造平屋建）竣工
	4月	三重県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校を併設
	5月	「総合病院」の名称使用承認
30年	7月	鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として、病院敷地内に「産業医学研究所」を設立
31年	7月	第1病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
32年	3月	第3病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	8月	健康保険法に基づく保健医療機関指定 病床数：307床（一般：220床、結核：87床）許可
33年	10月	基準看護（一般・結核）、基準給食承認
	11月	病床数：307床（一般 208床、結核：87床・伝染病：12床）許可
34年	1月	国民保険法に基づく保険医療機関指定 東5病棟（鉄筋コンクリート4階建）竣工
	9月	病床数：465床（一般：354床、結核99床、伝染病：12床）許可
	11月	中央治療棟（鉄筋コンクリート3階建）竣工
35年	1月	県立大学行政機構改革に伴い、「三重県立大学医学部附属塩浜病院」、「県立大学医学部附属准看護婦学校」へ改称
36年	10月	手術室、ボイラー室及び変電室竣工
37年	5月	病床数：465床 （一般：354床、結核：91床、精神病：8床、伝染病：12床）許可
	8月	病床数：465床（一般：354床、結核：99床、伝染病、12床）許可
38年	3月	外来診療B棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
39年	3月	外来診療A棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	7月	基準寝具承認
	12月	看護婦宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工
40年	4月	第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置 第三代院長・藤野敏行就任
41年	2月	病床数：465床（一般：354床、結核：52床、精神病47床、伝染病：12床）許可
	5月	「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
44年	4月	第四代院長・宮地一馬就任
48年	3月	院内保育所（木造平屋建）竣工
49年	4月	県立大学の国立移管により、三重県立大学医学部附属塩浜病院及び県立大学医学部附属准看

護婦学校を廃止し、「三重県立中央病院」、「塩浜高等看護学院」として発足

第五代院長・高崎浩就任

	9月	病院名称を三重県立中央病院から「三重県立総合塩浜病院」に改名	
50年	6月	第六代院長・森幸夫就任	
51年	4月	解剖霊安棟（木造）を鉄筋2階建に改築	
	5月	給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修	
52年	4月	第5病棟西棟（木造2階建）を鉄筋コンクリート4階建に改築	
53年	4月	第1病棟1階を検査室と薬品倉庫に改修	
54年	3月	防災設備（スプリンクラー等）を改修	
54年	9月	病院群輪番制病院	
55年	8月	外来棟冷房設置及び駐車場を整備	
57年	8月	基準寝具承認	
58年	1月	医事業務の電算化	
	3月	第3病棟の病床（産婦人科）を第5病棟に移設（7看護単位）、塩浜高等看護学院廃止	
	6月	X線コンピュータ断層診断装置を設置	
59年	3月	第6、第7病棟、第三宿舎、倉庫2棟の木造建築解体撤去、東5病棟改修、外壁塗装	
	8月	結核病床52床、精神病床47床、伝染病12床を廃止（一般病床354床許可）	
60年	3月	食器洗浄棟設置	
61年	12月	「県立総合病院整備基本計画」策定	
62年	3月	注射用与薬車を全病棟へ導入、錠剤自動分包機導入	
平成	2年	3月	高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
	3年	3月	県立総合医療センター建設用地取得
		4月	第七代院長・杉山陽一就任
	4年	1月	県立総合医療センター建設工事着工
		3月	県立総合医療センター（一般：350床、救命救急センター：30床）開設許可
		7月	ヘリポート設置許可承認
5年	4月	夜間看護等加算の承認	
6年	6月	医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工	
	4月	医事課を医事経営課に改める	
	6月	県立総合医療センター竣工	
	9月	県立総合塩浜病院閉院	
平成	6年	10月	県立総合医療センター開院
			救急病院指定
			身体障害者福祉法による更生医療指定病院承認
			結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院承認
			母子保健法による養育医療指定病院承認
			臨床研修指定病院承認
			保険医療機関指定承認
			労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医指定変更承認
			労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
7年	4月	NICU施設認定	
8年	2月	「エイズ治療拠点病院」指定	
	4月	八代院長・宗行万之助就任	

- 9年 1月 「基幹災害医療センター」指定（24年4月より「基幹災害拠点病院」指定）
- 11年 4月 九代院長・鈴木宏志就任
適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修
4月 「第二種感染症病床指定医療機関」指定
病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症4床）許可
7月 セミオープンベット開設
- 14年 8月 「地域がん診療連携拠点病院」指定
10月 十代院長：小西得司就任
- 15年 3月 地域周産期母子医療センター指定（NICU3床、GCU7床）
4月 「へき地医療拠点病院」指定
8月 新オーダーリングシステム導入
9月 救命救急センター HCU ICU CCUに分離（ICU CCU 7床→6床）
- 16年 3月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.3）
パーキングシステム設置
4月 患者相談窓口設置
6月 外来化学療法室を開設（6床）
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和ケア外来開設
8月 初代電子カルテシステム導入
- 20年 3月 放射線治療システム（ライナック）設置更新
4月 十一代院長：高瀬幸次郎就任
クレジットカード決済開始
災害用地下水供給システム設置
7月 セカンドオピニオン外来開設
10月 外来化学療法室の移転（2階）及び増床（7床→10床）
11月 自治会との災害給水協定締結
血管造影撮影装置（心臓・頭腹部アンギオ）設置
- 21年 3月 三重DMAT派遣協定締結（三重DMAT派遣病院）
4月 DPC（医療費定額支払制度）開始
6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.5）
8月 がんサポート室開設
10月 7対1看護基準取得
- 22年 6月 地域連携室移転整備（「かけはし」の開設）
10月 320列マルチスライスCT設置
- 23年 8月 2代目電子カルテシステム導入
- 24年 4月 地方独立行政法人化
初代理事長：高瀬幸次郎就任（院長兼務）
- 25年 3月 内視鏡棟完成（内視鏡センター設置）
病床数（一般409床、救命救急センター30床、感染症4床）許可
4月 周産期棟完成
6月 地域医療支援病院承認

- 26年 2月 MFICU 5床を供用開始
NICU増床（3床→6床）、GCU増床（7床→12床）
- 6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新取得（3rdG Ver1.0）
- 27年 1月 3.0テスラMRI増設
- 4月 「NPO法人卒後臨床研修評価機構認定病院」認定
- 10月 「三重県がん診療連携拠点病院」指定
- 12月 院内コンビニエンスストア開店
- 28年11月 1.5テスラMRI更新

(2) 施設設備の概要

●所在地 四日市市大字日永 5450 番地 132

●病床数

一般	409 床
感染症病床	4 床
救命救急センター	30 床
計	443 床

●診療科目

総合内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
神経内科	消化器・一般外科	乳腺外科	
呼吸器外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科
産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科
眼科	耳鼻いんこう科	精神科	放射線診断科
放射線治療科	麻酔科	病理診断科	

●本館敷地・建物概要

敷地面積	59,450.90 m ²
建物規模	地下1階、地上7階、塔屋2階
建物構造	高層部SRC造、低層部RC造
建築面積	9,764.56 m ²
延床面積	29,977.74 m ²
駐車台数	約700台

●附属施設

医師公舎	RC2階建、延床面積：517.86 m ²	(12戸)
看護師宿舎	RC3階建、延床面積：1,758.99 m ²	(68室)
院内保育所	RC平屋建、延床面積：233.40 m ²	

●厚生施設

食堂（7階）、コンビニエンスストア、自販機コーナー、授乳室（1階）

●付帯設備

電子カルテオーダーリングシステム
院外処方FAXステーション
災害備蓄倉庫
駐車場ゲートシステム

●電気設備

受変電設備	受電電圧 6.6kV 変圧器容量 4,570kVA
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3相 3線 6.6kV 1,000kVA × 1台 ディーゼルエンジン 3相 3線 220V 200kVA × 1台 ディーゼルエンジン 3相 3線 220/100V 150kVA × 1台 ディーゼルエンジン 3相 3線 220V 150kVA × 1台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000L (A重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75kVA × 1台 医療用定格出力 50kVA × 1台
電気時計設備	親時計 1台、子時計 268台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,440W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR型複合型受信機 (5系統、1018アドレス)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、防犯カメラ設備、太陽光発電装置、緊急地震速報システム、非常通報装置

●空気調和設備

主熱源	空気熱源スクリーヒートポンプ冷凍機 2台、ガス焚冷温水発生機 1台 合計約 610 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備等

給水設備	上水受水槽 216,000L × 1台 井水受水槽 102,000L × 1台 上水高架水槽 60,000L × 1台 井水高架水槽 40,000L × 1台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の 4系 統処理能力 712 m ³ /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m ³ /日
災害用地下水供給システム	8.0 m ³ /h
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2基 最高使用圧力 10kg/cm ² 最大蒸発量 2.4t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気

エレベータ設備

一般用2台、業務用4台、配膳用1台、ヘリポート搬送用1台、検体搬送用1台

●気送管搬送設備

23 ステーション

外来系・病棟系 2系統

●ヘリポート設備

陸上ヘリポート（屋上）耐重量6.8t

着陸帯22メートル（長さ）×18メートル（幅）

●高額備品一覧

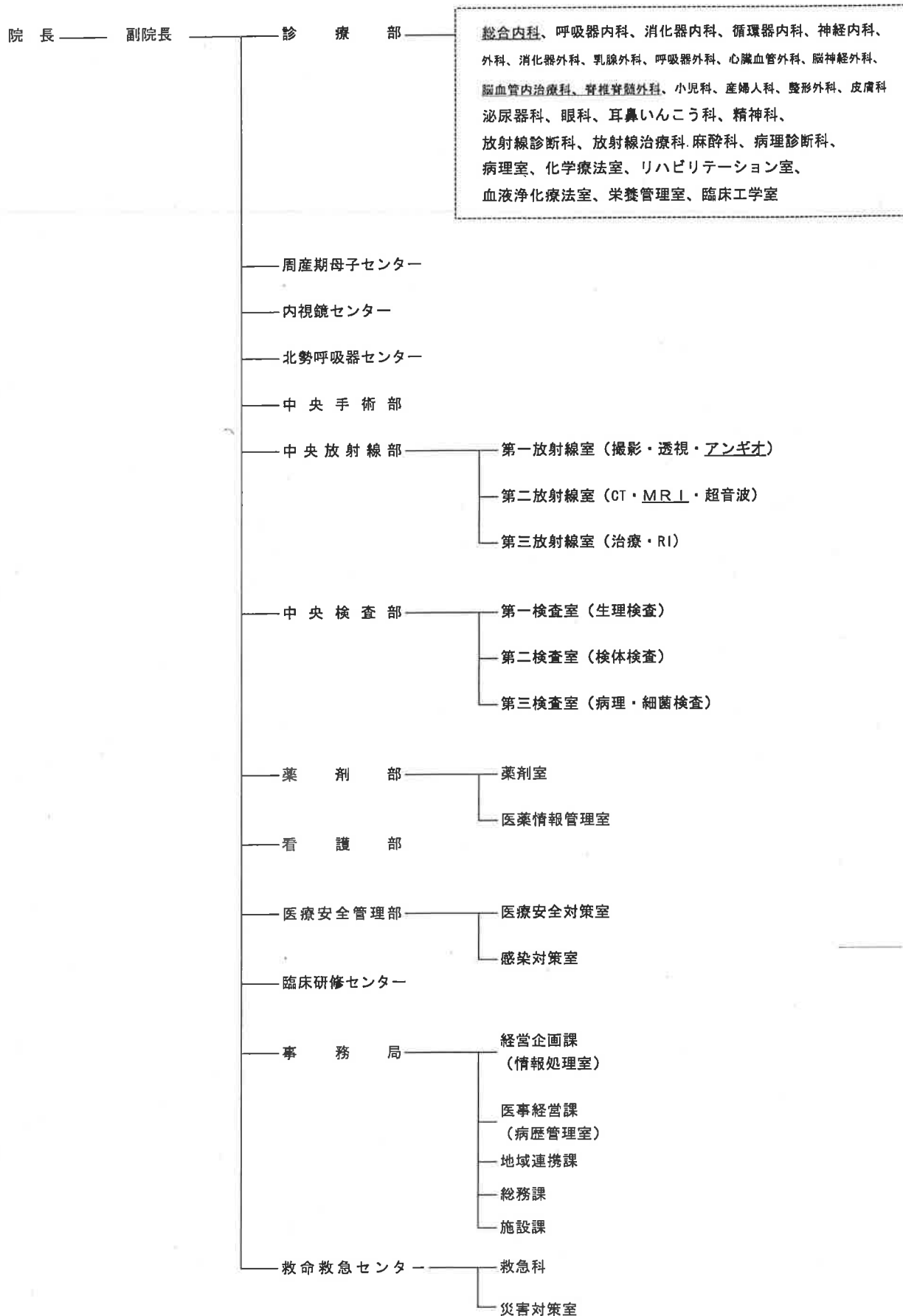
	資産名称	メーカー	規格	数量
2009	汎用超音波診断装置	GEヘルスケア	LOGIQ E9	1
2009	関節鏡視下カメラシステム 一式	ジンマー	Linvatec IM400	1
2009	ガンマカメラ	シーメンス	Symbia E	1
2009	X線透視撮影装置	東芝	ZEXIRA	2
2010	X線CT診断装置	東芝	Aquilion ONE	1
2010	患者監視装置システム（救命救急センター）	日本光電	MU-960R他	1
2010	ハイビジョンカメラシステム	カールストルツ	IMAGEL HDカメラコントロールユニット	1
2011	調剤支援システム	トーショー		1
2011	麻酔記録モニタシステム	日本光電	CAP-0500, CNS-9601他	1
2011	新医療情報システム（電子カルテ・オーダーリングシステム）	（株）ソフトウェア・サービス		1
2011	新医療情報システム（放射線システムPACS）	ピー・エス・ピー（株）		1
2012	汎用超音波診断装置	GEヘルスケア		1
2012	関節鏡視下カメラシステム	ジンマー		1
2012	生体情報監視装置	フィリップス		1
2012	高度集中治療用サブライユニット	ドレゲル		1
2012	眼底カメラ	日本ルミナス		1
2013	マンモトーム付乳房撮影装置	富士フィルムメディカル 他	AMULET F, SCM1 他	1
2013	高圧蒸気滅菌装置	㈱ウドノ医機	SHS-U1413-D/FL	3
2013	生化学自動分析装置	㈱日立ハイテクノロジーズ	LABOSPECT006	1
2013	レーザー光凝固装置	トプコン	PascalStreamLineYellow	1
2013	超音波診断装置	GEヘルスケア	VolusonE8	1
2014	3.0T-MRI	フィリップス	Ingenia 3.0T R5	1
2014	泌尿器用X線検診システム	島津製作所	UROVISION II	1
2014	超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7	1
2015	泌尿器電子内視鏡システム	オリンパス	VISERA ELITE 他	1
2015	心臓超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7G	1
2016	1.5T-MRI	フィリップス	Ingenia 1.5TCX	1

(3) 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本胸部外科学会認定医認定制度指定病院
- ・日本呼吸器外科学会専門医認定修練施設
- ・日本循環器学会循環器専門医研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
- ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会新生児認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構・基幹施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本アレルギー学会認定準教育施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・マンモグラフィー検診精度管理中央委員会マンモグラフィー検診施設画像評価認定施設
- ・日本眼科科学会専門医制度研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本臨床衛生検査技師会精度保証認証施設

(4) 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 組織機構図

平成28年12月31日



(5) 職種別定数及び現在員数

平成28年4月1日現在

職種	区分	配置数	現在員	過不足	嘱託/業務補助等
一般職	一般事務職	25	25	0	24
	電気技師	2	2	0	0
	情報技師	1	1	0	0
	建築技師	0	0	0	0
	保育士	0	0	0	0
	医師	97	104	7	0
	薬剤師	19	17	▲ 2	0
	管理栄養士	3	3	0	2
	臨床検査技師	22	22	0	3
	診療放射線技師	21	21	0	0
	理学療法士	5	5	0	0
	作業療法士	2	2	0	0
	言語聴覚士	1	1	0	0
	臨床工学技士	4	4	0	0
	看護師・助産師	404	418	14	54
	准看護師	0	1	1	2
	医療福祉技師	3	2	▲ 1	1
	診療情報管理士	1	1	0	1
	司書	0	0	0	1
	保健師	0	0	0	0
医師事務補助職員	0	0	0	3	
	小計	610	629	19	91
現業職	病院施設管理員	1	1	0	0
	施設管理専門員	0	0	0	1
	看護助手	0	0	0	13
	看護補助	0	0	0	13
		小計	1	1	0
合計		611	630	19	118

*現在員数には県等からの派遣職員を含む

3 各診療科・部門の概要

(1) 診療部（各診療科診療実績）

➤ 呼吸器内科

主な疾患について記します。

<肺癌>

肺癌に対する集学的治療に力を入れています。肺癌に対する薬物療法の進歩は目覚ましく、進行がんであっても5年以上の生存が得られることは珍しくなくなってきました。当科では患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるとこちらが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。

また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。また、院内緩和外来の開設により、痛みなどの症状にも、より対処できるようになりました。

<気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。呼気中一酸化窒素濃度測定による気道炎症の評価や、モストグラフによる気道抵抗評価を行うことでより客観的な管理が可能になりました。気道リモデリングの進行した難治性喘息に対しては、発作強度の軽減目的で気管支サーモプラスティ（気管支鏡を用いた温熱療法の一つ）を行っています。

<慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。効果を実感できるすぐれた薬が多く登場してきましたが、正常に服さない閉塞性肺機能障害がCOPDの特徴であるため、薬物療法だけでは十分とは言えません。当科では、肺機能だけでなく運動能力や栄養状態を含めた総合評価を1泊2日で行い、通院可能な症例に対しては外来リハビリテーションを行っています。

重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

<肺炎>

高齢化社会を反映して肺炎による死亡は増加の一途を辿っており、ついに脳卒中を抜いて日本人の死因の第3位になりました。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

<その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくことになります。
3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

◆平成 28 年入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
肺癌	265 例	
肺炎	262 例	
慢性閉塞性肺疾患 COPD	102 例	肺炎等と重複あり
自然気胸	66 例	特発性 46、続発性 20
間質性肺炎	59 例	
気管支喘息	65 例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績（5年生存率など）

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上まわる治療成績を出しています。

◆その他

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、
日本感染症学会認定施設、日本アレルギー学会準認定施設

◆診療方針

消化器内科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っております。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆主疾患を含む治療性成績

平成 28 年 消化器科入院診療実績

肝癌	47
食道癌	8
胃癌	60
十二指腸・小腸癌	10
大腸癌	39
胆道癌	28
膵癌	38
胃ポリープ	1
大腸ポリープ	99
胃・食道静脈瘤	16
胃・十二指腸潰瘍	59
胃腸炎	85
消化管出血	60
腸閉塞	37
肝炎	25
肝硬変・肝不全	30
胆石症・胆道炎	115
膵炎	33
その他の消化器疾患	35
その他	170
総数	995

◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝癌に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 28 年 消化器検査および治療施行数 (下記は当院全体の施行数です)

上部消化管内視鏡	2055 例
上部拡大内視鏡	210 例
経鼻内視鏡	44 例
超音波内視鏡(上部消化管)	25 例
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	26 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	1 例
食道静脈瘤結紮術(EVL)/硬化療法(EIS)	15 例/8 例
上部消化管内視鏡的止血術	84 例
内視鏡的上部消化管ステント挿入術	9 例
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	37 例
下部消化管内視鏡	1400 例
下部拡大内視鏡	85 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	350 例
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	4 例
内視鏡的下部消化管ステント挿入術	4 例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	158 例
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD/ERBD)	23 例/67 例
内視鏡的総胆管結石除去術(EST/EPBD)	57 例/7 例
内視鏡的胆管ステント挿入術	8 例
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	5 例
カプセル内視鏡(小腸/大腸)	7 例/8 例
肝動脈塞栓療法 (TAE・TAI)	30 例
肝腫瘍ラジオ波焼灼術(CT・エコーガイド下)	13 例

当科は心臓血管疾患および高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病など広範囲にわたる診療を行っております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携もとりながら常に最適な医療が提供できるような体制を整えています。

虚血性心疾患の方には、外来で施行可能な3つの画像診断を整えています。核医学検査（心筋シンチ）は年間300件以上の検査数があり、県下でも最も多い検査数となっております。320列マルチスライスCTによる冠動脈CTは15分程度で冠動脈の狭窄度、石灰化の分布が評価でき、年々検査数が増加しています。また最近では心臓MRIの施行も可能となり、心機能・梗塞の範囲・虚血の有無など心臓に関する多くの情報が得られる画像診断方法として、今後さらなる発展が期待されます。入院下で行う心臓カテーテル検査においては、なるべく患者さんの負担にならないよう手首の動脈を選択して検査を行っております。血行再建の選択においては、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法（投薬観察）か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈形成術においても、検査時と同様に大部分の症例で手首の動脈より治療を行っており、侵襲が少なく治療後も安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようにし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置などを駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、積極的な電気整理検査による確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療が中心でしたが、昨年からは、高度な不整脈治療であるカテーテルアブレーションを大学の不整脈専門医を招聘し、当院で施行できる体制を整えました。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療（抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など）を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科と連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は症例数も多く、緊急性が高い疾患が多いため、当科では24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機をし、診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんに対しても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

◆入院疾患の概要 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

疾患名	事例数
狭 心 症	246
心 不 全	265
急 性 心 筋 梗 塞	63
慢 性 虚 血 性 疾 患	113
肥 大 型 心 筋 症	11
拵 張 型 心 筋 症	8

◆主疾患を含む治療性成績 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

冠動脈造影総数 343 例 (経皮的冠動脈形成術を除く)

経皮的冠動脈形成術数 162 例 初期成功率 99.1% (160/162 例)

末梢動脈血管内治療 15 例

電気生理検査 54 例

カテーテルアブレーション 1 例

ペースメーカー植え込み術 33 例(新規 23 例 交換 8 例)

埋め込み式除細動器 2 例

◆主疾患プロトコール

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞 末梢動脈血管内治療

急性大動脈解離 ペースメーカー植え込み・電池交換 カテーテルアブレーション

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

◆主疾患を含む治療方針と概要

・脳卒中

脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。年間200から250人、主に虚血性脳血管障害中心に担当。

毎日24時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。

・超急性期加療

脳梗塞発症4.5時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づきt-PAを用いた加療を行っており、脳外科とのチーム医療で必要例には、投与後血管内手術の併用療法を行っている。

・ボツリヌス局所療法

眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性に対するの局所注射療法

短時間で、外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行。年間50人から70人ほど施行。

研修医にも研修中に資格取得してもらっております。

・変性疾患

代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が10-15人ほど見つかり、50-60例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け入れている。

・認知症

専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中。

◆主疾患治療プロトコール

①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用

②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性：ボツリヌス局所注射療法

③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院

④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース

⑤γグロブリン大量療法(IVIg療法)

⑥他

- ・日本内科学会認定医2名・総合内科専門医1名・指導医2名
- ・日本神経学会専門医常勤2名・指導医2名
- ・日本脳卒中学会専門医1名
- ・日本臨床神経生理学会認定医2名
- ・日本脳卒中学会研修教育病院 指導医1名
- ・ボツリヌス施行有資格者 当科3名
- ・ITB療法有資格者 当科2名
- ・日本神経学会教育施設

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

➤ 消化器・一般外科

当科では日本内視鏡外科学会・技術認定医が常勤しており腹腔鏡下手術を高頻度に施行しています(食道癌、胃癌、大腸癌、胆嚢結石、虫垂炎、腸閉塞、鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアなど)。

消化器癌診療は各臓器の癌診療ガイドラインに準拠しています。さらに早期消化管癌は消化器内科と内視鏡治療の適応を検討しています。

救急分野では救命救急センターに外科専門医かつ日本救急医学会専門医が常勤しており、外科系患者の救急体制が整備されています。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて原則施行しており、術後補助化学療法のほか進行再発癌に対する QOL 改善、延命を目指す治療を行っています。院内では月 1 回の化学療法安全運営会議が開かれ、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を図っています。

緩和ケアは、緩和医療専門医である外科専門医が中心となり薬剤師、看護師、臨床心理士にて構成される緩和ケア・チームが週 2 回の外来と院内回診を行っています

小児外科分野では週 1 回小児外科専門外来が開設されています。

疾患名	症例数
食道癌根治術	2
食道良性手術	2
胃十二指腸良性手術	17
胃十二指腸悪性手術	48
イレウスを除く小腸手術	26
イレウス手術	27
虫垂炎手術	79
大腸肛門悪性根治術	93
大腸良性手術	24
肛門良性手術	12
胆道良性手術	93
胆道悪性手術	7
肝切除術	11
膵良性手術	2
膵悪性腫瘍根治術	4
門脈、脾手術	1
乳癌根治術 (H28 年から乳腺外科の専門医が執刀し当科がアシストしています)	43
乳腺良性手術	5
甲状腺手術	0
外傷手術	5
ヘルニア手術	102
その他	79
計	682

このうち腹腔鏡下手術は 332 例

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール (クリニカルパスによる術後入院期間)

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間

◆その他

当科が資格を有する当院の施設基準：

日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

➤ 乳腺外科

診療ガイドラインに準拠した治療を施行しており、早期乳癌にはセンチネルリンパ節生検術を適応しています。術後ホルモン療法、化学療法は原則外来にて行い、副作用が出現した場合には入院加療も含めた対応を適宜行っています。転移再発乳癌に対しての化学療法、放射線療法等も原則外来で行っておりますが、病状に合わせて入院加療を適応しています。また、治療決定時にはご本人・ご家族と十分に相談しながら、QOL改善や延命を目指す治療方針を決定しております。

◆手術症例の概要 手術内訳 平成28年1月～12月

疾患名	症例数
乳癌手術	43
良性腫瘍手術	5
計	48

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

乳癌手術	乳房部分切除かつセンチネルリンパ節生検術	術後5日間前後
	乳房切除かつセンチネルリンパ節生検術	術後7日間前後
	乳房切除又は部分切除かつリンパ節郭清を伴う手術	術後10～14日間

◆その他

資格を有する当院の施設基準：日本乳癌学会専門医制度認定施設

1. 心臓血管外科の診療内容

心臓とは人の胸の中にあり、収縮と拡張を規則正しく行うことで、血液を全身に送り続けている臓器です。心臓から送り出される血液によって、全身の臓器は酸素や栄養分を受け取ることができるのです。心臓から送り出される血液は酸素を十分含んだ血液(動脈血)で、動脈を通して全身の臓器に送られ、全身の細胞を養います。役目の終わった血液は静脈血として静脈を通して心臓に戻ってきます。血液にとって動脈は行き道、静脈は帰り道となります。心臓は、この血液を全身に送るために規則正しく、常に休むことなく動き続けます。1分間に約60-80回、1日におよそ10万回、1年では約4000万回、一生には約30億回も収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送り続けます。心臓は一回の収縮で約70ミリリットルの血液をおくりますので、一分間で約5リットル、一日で約7000リットルの血液を全身に送り続ける事になります。人が生まれてから、心臓は休むことなく血液を送り続け、血液の通り道である動脈と静脈は、この血液の流れを受け止め続けるわけです。この心臓と血管を含めて血液を全身に送る体のシステムを総称して「循環器」と言います。この様に常時大変な仕事をしている心臓と血管「循環器」ですので、機能障害が起こらない事のほうがむしろ不思議な事とさえ言えます。

最近よく耳にする「メタボリックシンドローム」という言葉をご存じの方は多いのではないかと思います。それは動脈硬化性疾患の危険性を高めるリスク症候群で、内臓脂肪蓄積に加え、脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖(糖尿病)を伴う病態です。いわゆる「生活習慣病」でもあり、主に生活習慣や環境・体質などによって症状もなく徐々に進んでいき、「動脈硬化」という血管の病気を通して、心臓や血管、すなわち循環器の大変な病気を引き起こしてしまいます。循環器は、人間のすべての臓器を養っている大切なシステムですので、循環器系に障害が出ることで、心臓だけでなく他の臓器例えば、脳や腎臓といった全身のあらゆる臓器の病気も引き起こしてしまう事も大きな問題とされています。循環器疾患は実に多様性に富んでおり、内科的治療のみでは対応できない病気も多い事がわかってきています。私たち、心臓血管外科ではその名の通り、心臓と血管の機能障害を外科的に治療することを専門としております。

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。循環器病の全身状態に最大限の配慮をした「体に優しい外科治療」をモットーに治療に当たっています。手術そのものが体に与える負担を医学用語で「手術侵襲」といいますが、私たちはこの手術侵襲を最小限に抑えた「低侵襲心臓手術」に取り組み、心臓から全身の血管(脳血管は除きます)まで広い範囲で診療を行っています。

病気に対する戦いは、病気に対する正しい理解から始まります。「心臓・血管がおかしいかな」と気になる方は、是非お気軽に当科までご相談ください。電子メールでのご相談や、いわゆるセカンドオピニオンに関するご相談にもお答えします。心臓血管外科・近藤宛で、当院に電子メールをお願いします、アドレスは sogohos@pref.mie.jp です。

私たち心臓血管外科は機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。高い安全性と洗練された質の高い心臓血管外科治療を推し進め、皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

2. 体に優しい心臓手術

従来の心臓手術といえば、人工心肺装置(人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、心臓を止めて行なうため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でした。心臓に病気を持っている人は、心臓をはじめ全身の臓器に機能障害をもっている事が多く、患者さん本人にとってはますます負担と危険性の高いいわゆる「命がけの手術」となっていました。当施設では、冠動脈バイパス手術におきましては、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「体に優しい低侵襲心臓手術＝オフポンプ手術」に2002年から取り組んできました。ご高齢のかたや脳梗塞・腎不全・糖尿病といった全身臓器の障害を持った患者さんにとっては特に有用な手術法です。

3. 冠動脈バイパス手術について

心臓を養っている冠動脈という血管が動脈硬化で細く狭くなると、十分な血液が心臓に行き届かなくなり、狭心症という病気を引き起こします。さらに冠動脈が詰まると心臓の筋肉が腐ってしまう心筋梗塞という病気を引き起こします。冠動脈バイパス手術は、この冠動脈が細く狭くなったり詰まったりした部位を飛び越えて、血液の新しい通り道をつける手術の事です。古くて痛んだ狭い道路はそのままにして、新しくバイパス道路を建設して、交通の便が良くなることと同じと考えていただければご理解いただけると思います。狭心症や心筋梗塞の患者さんに対して行う手術で、心臓の手術では最も多く行われている手術です。日本では年間に約16000人の人に行われています。

従来、心臓手術は人工の心臓や肺である人工心肺装置を使って、心臓を止めて行うのが常識でした。一方2000年頃より、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、体に対する負担を軽減し安全性を向上させるため、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」が新しい手術法として登場してきました。人工心肺装置(ポンプ)を用いないためオフポンプ手術とも言います。この手術は「体にやさしく安全性が高い」と言う大きなメリットがある一方で、心臓を止めずに動かしたまま手術を行うため、質の高い結果を得るためには、高い手術スキルはもちろんのこと、麻酔を含め洗練された手術環境・チームワークが必要です。当科では2002年からこの「オフポンプ冠動脈バイパス」に取り組み、多くの実績をあげてきました。

当科では冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術による完全血行再建を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。最近では手術適応患者さんの高齢化もあり、大動脈～頭頸部動脈の動脈硬化の強い患者さんが増え、術中脳梗塞合併の危険性が高くなっておりますが、オフポンプ手術を第一選択とした2002年6月から現在まで、術中脳梗塞はゼロを維持しております。また、自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。2015年2月までで、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの95.4%で、待機手術では98.8%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者様に動脈グラフトを用いております。何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合は静脈グラフトを用いております。しかし最近では重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

4. 心臓弁膜症の手術について

心臓は4つの部屋、左心房・左心室・右心房・右心室を持っています。左右の心室は血液を勢いよく送り出すために、入口と出口には弁と呼ばれるものがついており、血液の流れが一方向に進み、戻ってこないようにする働きがあります。この弁の機能に障害を来した状態を弁膜症といいます。具体的には弁がきちんと閉まらなくて、血液が逆流してしまう「閉鎖不全症」と、弁の開きが悪くなり血液の通りが悪くなる「狭窄症」があります。中でも全身に血液を送り出す左心室の入口と出口にある弁、それぞれ僧帽弁、大動脈弁と言いますが、これらの機能障害がひどくなった場合には手術が必要となります。この弁膜症に対して、私たちは、弁病変の形や心臓の機能・患者さんの状態に応じて、一人一人の患者さんに最も適切な手術法を選択し提供いたします。

僧帽弁疾患では、自己弁を温存する形成術を第一選択とし、さらに心房細動を有する患者さんでは、積極的に不整脈手術(MAZE手術)を追加し、抗凝固不要を目指しております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈弁疾患では、人工弁置換術が基本となります。術後抗凝固が不要な生体弁を用いるか、半永久的な耐久の機械弁を用いるかは、患者さんの年齢、合併疾患の有無等を考慮し、患者さんと相談の上決定しております。

5. 大動脈疾患の手術について

大動脈とは全身へ血液を送る最も太い動脈です。心臓から出て頭の方へ向かい、胸の上部でUターンして胸の中を下半身へ向かって走行します。そして、横隔膜を貫通しお腹にはいり、お臍(へそ)の下あたりで左右の脚(あし)に向かうように分岐します。

手術が必要になる大動脈の病気の中で、最も多いのが大動脈瘤です。大動脈瘤とは読んで字の如く大動脈が「瘤(こぶ)」状に徐々に膨らむ病気です。これは、動脈硬化+高血圧症が主な原因です。動脈硬化を促進する因子=高血圧症、糖尿病、高脂血症(高コレステロール血症)、喫煙、肥満等をお持ちの方は、持っていない人に比べ、大動脈瘤になる危険性が高くなります。

多くは無症状で、いつの間にか大きくなり、他の疾患の精査で偶然発見されることが多いです。腹部大動脈瘤の場合は、お腹を触った時に、偶然に脈を打っている腫瘍として発見されることもあります。なかには、ご自身で拍動する腫瘍として自覚していても、痛くも何ともないので放置していて、たまたま医師に相談して発見されるというケースもあります。

また、肥満の方(お腹がぽっちゃりしている方)では大きくなっていても、触診で全く拍動がわからないことも多いです。胸部大動脈瘤は外から触ってわかることはありません。

大動脈瘤が破裂するような大きさになるのには数年以上かかりますが、症状が出ないため見つけにくいという難点があります。つまり、破裂しない限りはっきりとした症状は認めません。しかし、一旦、破裂すると痛みと同時に体内に大出血を起こすため、出血性ショックとなります。破裂した場合は、救急車で病院にたどり着く前に絶命する可能性が高い病気です。

手術は大動脈瘤を切除し人工血管に置き換える(置換する)人工血管置換術が一般的で確実です。最近では大動脈瘤のある部位の大動脈内にカテーテルを用いてステントグラフトというパイプを留置し、膨らんだ部位への血流を遮断して破裂を防ぐ治療法もあります。しかし、大動脈瘤の位置や形態で適応される症例は限られます。また腹部大動脈瘤では手

術自体が危険と考えられる高齢者や重い合併疾患のある方が基本的な適応となります。確実に耐久性に優れているのは手術による人工血管置換です。尚、現時点ではステント治療は限られた施設でしか行えず、当院では行えませんので、適応症例は関連施設へ紹介しております。

動脈硬化が原因で起こる大動脈瘤症例では、全身の他の動脈にも病変がある場合が少なくありません。脳梗塞の原因となる脳動脈硬化症・頸動脈狭窄症、心臓を養う冠動脈の硬化が原因の心筋梗塞・狭心症、下肢の血行障害となる閉塞性動脈硬化症などを合併します。当院では大動脈瘤の待機手術の患者様全例に、上記合併疾患の有無とその治療の必要性を評価し、安全な手術治療が行えるようにしております。実際、胸部大動脈瘤手術と冠動脈バイパス術を同時に行った患者さんや、冠動脈バイパス術を行ってから腹部大動脈瘤の手術や下肢の血行再建術を行った患者さんも多数おみえです。

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂では、救命には手術治療が不可避であり、可能な限り緊急対応しております。

6. 末梢動脈疾患の手術について

下肢の血行障害に対する手術を行っています。最も多い病気は、両脚へ血液を送る動脈が動脈硬化で徐々に狭くなり、ひどい場合は詰まってしまい、下肢への血流が不十分になる病気で、閉塞性動脈硬化症と言います。足が冷える、歩くとふくらはぎが張って痛くなり、休まないと歩けないという症状(間欠性跛行と言います)が典型的です。さらにひどくなると足先が壊死に陥る場合もあります。喫煙は症状を悪化させる大きな要因で、まずは禁煙することが重要です。

手術は血行再建術で、自家静脈グラフトまたは人工血管を用いてのバイパス術を行います。血行障害がなくなると、足は温かくなり、歩行障害もなくなります。

7. 静脈疾患(下肢静脈瘤)の手術について

静脈は体の端から心臓に血液が戻る帰り道です。人が立った状態では、下肢の静脈血は重力に反して上へ上へと流れなければなりません。そのため静脈には逆流しないように弁が付いていますが、この弁が壊れてしまい、静脈血がうっ滞して下肢の静脈が腫れる病気を下肢静脈瘤と言います。特に立ち仕事をしている方では、時間が経つにつれ(夕方になると)脚がだるくなり、むくみがひどくなり、痛みを伴うこともあります。ひどい場合はうっ血により足首近くに色素沈着や潰瘍形成を来す場合もあります。

軽症の場合は弾力ストッキング着用をお勧めしております。当科外来では脚のサイズ(太さ)を測定し、ストッキングの適切なサイズの指導をしております。

中等症以上の方や見た目が軽症の方でも症状が強い方は外科治療を勧めております。女性の場合、美容的な観点から治療を希望される場合もあります。

いわゆる手術は原因となる静脈の抜去術が基本術式でありましたが、レーザー焼灼術が健康保険適応となり、現在はレーザー治療が主流となってきております。同治療では局所麻酔による日帰り治療も可能となりました。しかし、残念ながら当院では専用のレーザー治療機器がありませんので、関連施設に紹介させていただいております。

8. 無輸血手術について

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の

時の輸血は自分の血液でまかなうという「自己血輸血」を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として800mlの自己血を貯めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者様の多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

以上、私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。地域の皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	26	21.6	(17.6)
弁膜症・先天性心疾患等	13	23.3	(17.3)
大動脈疾患(胸部)	10	23.7	(20.9)
大動脈疾患(腹部)	13	18.2	(13.5)
末梢動脈疾患	20	11.0	(8.8)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均14.5日でありました。

◆ 主疾患の治療成績（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

- 1) 単独冠動脈バイパス術：26例
 - ・ off pump 手術：26例（100%）
 - ・ on pump 手術：0例
 - ・ 平均バイパス本数：2.35本/人（H28は多枝バイパスを要する症例が少数でした）
 - ・ 緊急手術：7例
 - ・ グラフト開存率：98.1%
 - ・ 入院死亡：2例
- 2) 弁膜症手術：12例
 - ・ 大動脈弁疾患：4例
 - ・ 僧帽弁疾患：7例（僧帽弁形成術：6例）
 - ・ 複合弁疾患：1例
 - ・ メイズ手術併施：4例、冠動脈バイパス術併施：0例
 - ・ 入院死亡：0例
- 3) 大動脈瘤手術：23例
 - ・ 胸部：10例（急性解離4、外傷1）
入院死亡：3例（急性解離2）
 - ・ 腹部：13例（破裂2）
入院死亡：0例

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。当科では、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

これらの中で、最も多く行われる肺癌の手術は、日本では1年間に約26000人に行われています。肺癌の標準手術は病巣のある肺葉（人間の肺は、右は3つの肺葉、左は2つの肺葉に分かれています）と病巣の転移経路であるリンパ節を切除することです。手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、傷がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術は傷が小さく痛みが少ない利点がある反面、出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm前後の皮膚切開で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い2009年から創のサイズを縮小。5~10cmの小切開と胸腔鏡を併用したいわゆる胸腔鏡補助下手術(Hybrid手術)を開始しました。

一方で、近年、CT等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なれば少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも2cm以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

気胸の手術は、日本では1年間に約12,000人に行われています。当科では胸腔鏡手術により痛みを和らげ早期の社会復帰ができるように努めております。

炎症性肺疾患、膿胸等に対する手術は、患者さんのQOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

前述の如く当科では、呼吸器外科のあらゆる疾患に対する手術に対応しています。総合病院の特徴を最大限に利用し、他科との協力のもと、進行肺癌に対する拡大手術や合併症を有する患者さんに対する手術も積極的に行っています。さらに呼吸器内科と密に連携して初診から手術までの期間を短縮するよう努め、肺癌や悪性中皮腫に対する集学的治療（手術、化学療法＝抗癌剤治療、放射線治療等を併用して行う治療）も積極的に行っています。

以上、私たち呼吸器外科は、地域の皆様の健康に貢献できますよう努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
肺癌(原発性+転移性)	62	10.4	(7.9)
肺癌・気胸以外の呼吸器疾患	35	14.8	(10.7)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	7	8.6	(6.0)
気胸	26	13.2	(6.3)

◆ 主疾患の治療成績 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

- 1) 原発性肺癌手術：53 例
 - ・胸腔鏡下手術：48 例 (90.6%)
 - ・治癒切除：48 例 (90.6%)
 - ・非治癒切除：5 例 (9.4%)
 - ・入院死亡：0 例 (0.0%)
- 2) 他の呼吸器外科疾患手術：77 例
 - ・入院死亡：0 例

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患に対する迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）を中心に治療を行っています。

最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PA の急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきています。また、専門外来として「脊椎・脊髄外来」を開いており、外傷も含めた脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えていきます。

◆入院疾患の概要

症例・手術	件数
手術総数	286 件
脳動脈瘤	15 件
脳腫瘍	24 件
脊椎脊髄	133 件

◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者の方に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっています。

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。また、小児科医師数は北勢地区の病院の小児科では最大人数を確保しています。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら公立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

◆ 周産期母子センター（3階東病棟）

本院開院時に、県内で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来にて発達フォローを行っております。昨年より周産期棟の増改築を行い、現在NICU 6床、GCU 12床の計18床にて運用しており、需要に応じ9床+18床までの増床が可能です。

◆ 小児科病棟（3階西病棟）

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

◆ 外来診療

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

◆ 救急外来

当院は、本来2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。

特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

◆ 平成28年診療実績

一般小児科病棟入院患者数：1,580人

一般小児科外来患者数：17,403人

時間外、救急外来患者数：2,881人

NICU+GCUの入院患者数：234人

うち超低出生体重児：2人

極低出生体重児：4人

産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、三重県がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
産科手術	145例	帝王切開 122例、頸管縫縮 4例、流産ほか 19例
ハイリスク分娩	60例	全分娩数 345例 母体搬送 24例
婦人科手術	587例	腹腔鏡手術 431例、子宮鏡 69例を含む
腹腔鏡手術	431例	
全手術件数	732例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

子宮頸部悪性腫瘍	28例（上皮内癌、腹腔鏡手術を含む）
子宮体部悪性腫瘍	25例（開腹手術 7例、腹腔鏡手術 18例）
卵巣悪性腫瘍	29例（開腹 25例 腹腔鏡 4例）
その他婦人科悪性腫瘍	6例（肉腫 3例 卵管癌 1例 腹膜癌 2例）

◆手術実績

腹式単純子宮全摘術	30例	腹式良性卵巣腫瘍手術	13例
腹式子宮筋腫核出術	2例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	25例
腔式単純子宮全摘術	9例	子宮外妊娠手術（開腹 腹腔鏡）	5例 11例
広汎子宮全摘術	12例	円錐切除術	51例
腹腔鏡手術	431例	子宮鏡下手術	70例

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む）

婦人科癌：化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、外来化学療法を積極的に行っています。
：放射線治療 子宮頸癌を中心にしています。

腹腔鏡手術 平成 19 年から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

◆その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）手術（入院）を行います。

平成 27 年からは先進医療（腹腔鏡下子宮頸癌根治手術）を実施できるようになりました。

平成 25 年 4 月から NICU（新生児）棟が完工・オープンしました。また、MFICU を平成 26 年に開設しました。

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しています。

◆治療の実際

骨折

骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療効果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

変形性関節症

高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では、専用の無菌室（クリーンルーム）での人工関節手術（年間 93 例）や人工関節を用いない骨切り術（年間 8 例）を中心に組み立てており、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

スポーツ外科

膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間 314 例、自家腱移植による靭帯形成術、関節授動術は、年間 49 例となっております。

軟骨損傷

軟骨損傷に対しては関節鏡下自家骨軟骨柱移植術（年間 13 例）や microfracture 法を積極的に行ってまいりましたが、平成 25 年 8 月に他施設に先がけ、保健医療での培養軟骨移植術の三重県最初の施設認定を受け、再生医療を開始致しました。平成 28 年は 5 例となっております。通算 14 例は現在症例数全国 5 位です。これにより損傷の面積や深度に応じたそれぞれの患者さんに最適な治療法を選択することが可能になりました。

◆主疾患治療プロトコール

人工股関節置換術：術後 4～6 週間にて退院

人工膝関節置換術：術後 3 週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後 2 週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後 2 週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：最短で 3 泊 4 日にて退院（6 泊 7 日もあり）

前十字靭帯再建術：術後 2 週間にて退院

◆その他

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、症状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。

当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。

また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げます。

➤ 皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が診療を行っています。外来は、月曜午前・木曜午前は、大学よりの非常勤医師が、それ以外の時間帯は常勤医師が診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している褥瘡の治療、予防ケアなどにも力を入れています。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	3	
蜂窩織炎	9	
湿疹・皮膚炎	5	
水疱症	2	
熱傷	3	
褥瘡感染	14	
その他	2	

入院患者 38 件/年

◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

外科的処置・治療領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 154 件/年（皮膚生検・外来小手術 84 件、手術室手術 70 件）

表皮嚢腫 55 件、石灰化上皮腫 10 件、母斑 9 件、疣贅 9 件、脂肪腫 7 件、線維腫 7 件、皮膚癌（上皮内癌）12 件など

◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7 日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10 日間

褥瘡パス入院 10～20 日間など

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法や抗癌剤を使用した全身化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、下部尿路結石(膀胱・尿道結石)は当院にても治療可能ですが、上部尿路結石(腎・尿管結石)の結石破砕術に関しては、四日市羽津医療センター泌尿器科と連携し、治療を行っています。また、男性不妊症・男性更年期障害など男性特有の疾患を扱う男性外来を、完全予約制で行っております。

◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	H7-27年の件数	H28年の件数
前立腺癌	根治的前立腺摘出術	103例	3例
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	81例	0例
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	949例	67例
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	105例	3例
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	72例	1例
精巣癌	高位精巣摘出術	55例	5例

また、前立腺肥大症や膀胱癌に対する経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術(TUR: transurethral resection)では電解質溶液下で良好な切開性能が得られるTURis (TUR in saline)システムを採用し、良好な成績を得ております。

◆主疾患治療プロトコール(クリニカルパスを含む)

症例数の多い経直腸的前立腺針生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各入院検査・手術ではクリニカルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。

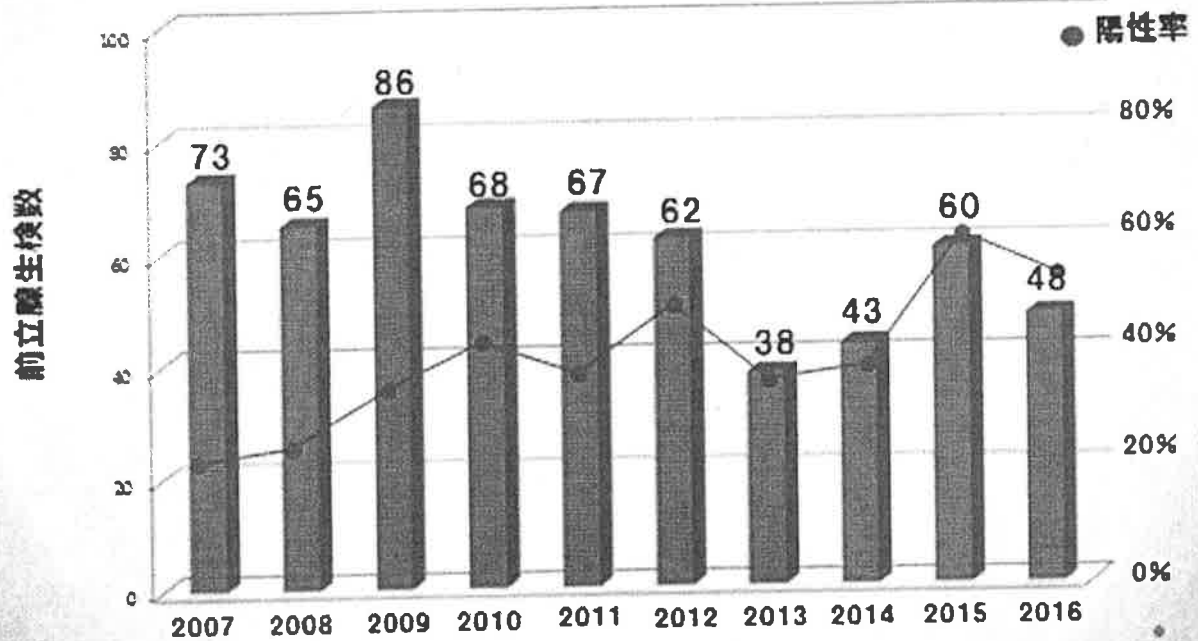
一方、悪性疾患(癌)に対する化学療法も積極的に行っております。腎細胞癌においては分子標的薬による治療を導入しており、進行膀胱癌(尿路上皮癌)の全身化学療法としてはジェムシタビンやタキサン系抗癌剤を中心とした化学療法が標準的治療となっており、種々の化学療法を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった去勢抵抗性前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。

前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも10ヶ所以上の多数ヶ所生検を1泊2日の入院で行っています。また、通常では難しかった領域での検出率を上げるため、H28年度よりMRI同期エコーガイド下ターゲット生検も始めております。

◆その他

当科では患者さんとの十分な説明と話し合い・相談の上で、治療法の選択を行い、患者さんに満足を頂ける最善の治療を行うことを目指しております。

前立腺生検件数の年別推移



平成25年1月から、当センター眼科の外来診療を開始しました。月曜日から金曜日までの午前の一般診療、月、水、木、金曜日の午後の予約診療を行っております。平成26年1月からは最新のパターン स्क्यानレーザー装置を導入し、網膜血管閉塞性疾患、網膜裂孔、黄斑浮腫の治療に使用しております。

角結膜疾患：点眼治療のみでなく、塗抹鏡検・培養・血清点眼等の特殊検査および治療にも対応します。

緑内障：光干渉断層計（OCT）と精密視野検査による綿密な病期判定を行なったうえで点眼薬・内服薬・レーザーによる治療を行ないます。

糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患・網膜裂孔：レーザー治療を中心に対応します。

ブドウ膜炎・視神経炎：点眼、内服治療が主ですが、入院による薬剤点滴治療にも対応します。

平成25年7月1日、日本眼科学会専門医制度研修施設の認定を受けました。

➤ 精神科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。

診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。

なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

◆平成28年診療実績

外来延患者数	3,476人
一日平均外来患者数	14.3人

➤ 放射線診断科

放射線診断科は、内科系診療科、外科系診療科、救急などすべての診療科から依頼を受けて、CT、MRI、血管造影、IVR (interventional Radiology)、核医学検査の施行と画像診断を行っています。そして、各診療科のカンファレンス等に参加し、密接な連携の元に診療を行っています。

また、四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの検査および画像診断を行っています。

➤ 放射線治療科

診療方針 (特徴) : 放射線治療は、機能や形態を残すことが可能な治療法です。一般的に、必要な放射線を数回から数十回に分けて、数週間かけて照射します。このため、年配者でも比較的楽に受けて頂ける治療法です。また、治癒を目的にした治療ではなく、がんによる症状の緩和についても とても優れた方法です。

当院では通常の直線加速器 (リニアック) を使用した放射線治療を行っています。当院で不可能な放射線治療 (IMRT、定位照射、小線源治療等) が必要な場合は他の病院に紹介しています。

外来での照射ができない疾患の場合には、担当科に相談下さい。当科での入院は行っていません。あらかじめ連絡の上、受診してください。

◆入院疾患の概要 (当科は入院病床を持っていません)

◆主疾患 (悪性疾患) を含む治癒成績

1 放射線治療患者の内訳 (平成28年)

新規登録患者数	131 例 (新規患者数)	141 例 (治療患者総数)
治癒目的の照射	23 例	23 例
緩和的照射	36 例	46 例
術後照射	72 例	72 例
術前照射	0 例	0 例

2 疾患 (部位) 別症例数

脳	頭頸部	肺	乳腺	食道	肝・胃	大腸・直腸	腎膀胱	婦人科	骨軟部	不明
6 例	0 例	28 例	59 例	7 例	5 例	4 例	5 例	15 例	1 例	1 例
5%	0%	21%	45%	5%	4%	3%	4%	11%	1%	1%

当院の放射線治療は、乳癌・肺癌・子宮癌で全体の約 77% を占めます。乳癌では、当院乳腺外科や、近隣の病院からの依頼による乳房温存術後の照射が多い。

➤ 麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

◆平成28年診療実績

手術症例数

全手術症例数：3,166件

うち麻酔科管理症例数：1,928件

麻酔法	件数
全身麻酔	911
全身麻酔+硬膜外麻酔	818
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	199
緊急手術	282

◆その他

全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

➤ 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科では平成 26 年 9 月より常勤耳鼻咽喉科専門医 1 名が診療を行っています。外来診察は月曜日から金曜日までで、耳鼻咽喉科に関する全般的な診療を行っています。

頭頸部外科疾患に関しては、診断を重視し、CT、MRI、頸部エコーに加え、甲状腺 FNA 検査等を行っています。全身麻酔下の手術加療については、現在対応していません。

近年高齢化社会により増加している嚥下困難に対しては、院内嚥下チームと連携し、嚥下ファイバー検査を行っています。

常勤医師は日本耳鼻咽喉科学会専門医と日本アレルギー学会専門医にも認定されており、鼻粘膜レーザー焼灼術、舌下免疫療法（スギ、ダニ）等、アレルギー疾患に対し積極的な加療を行っています。

突発性難聴や末梢性顔面神経麻痺急性期については下表(2)のごとく状態に応じ、外来通院点滴加療や入院点滴加療をおこなっています。

外来診察では、純音聴力検査、語音明瞭度検査、脳波聴力検査、ティンパノグラム、耳小骨筋反射、赤外線 CCD カメラによる眼振検査、重心動揺検査、基準嗅覚検査、電気味覚検査、簡易型アプノモニター等の生理学的検査に対応しております。

◆平成 28 年診療実績 （1月から12月）

(1)

術式・検査	件数
鼻腔粘膜レーザー焼灼術	26 例
鼻腔粘膜焼灼術（鼻出血）	12 例
鼻骨骨折整復術	10 例

(2)

病名	外来	入院
突発性難聴	52 例	6 例
末梢性顔面神経麻痺	6 例	3 例

(2) 看護部

◆ 看護部の理念

気づき (feel) ・ 対話 (communication) ・ 協働 (collaboration) ・ 笑顔 (smile)

気づき：患者さんの思いを感じ、察して

対話：対話（聴く・伝える）を大切に

協働：他職種や地域の医療機関などの法と協働し安心・安全なチーム医療を実現することで

笑顔：笑顔あふれる職場を創り、患者さん・地域の皆様も自然に笑顔になれるような看護を目指します。

◆ 平成 28 年度看護部目標

1. 指さし呼称を習慣づけ安心・安全な医療・看護を提供します
2. チーム医療を推進し、ベッドサイドケアにつなげます
3. 7:1 看護体制の維持に向けて改善に取り組みます
4. キャリアラダーの運用を通じて、専門職として自己の能力開発に努めます
5. 多様な働き方を認め合い、それぞれの役割を果たします

◆ 平成 28 年度看護部実践報告

1. 看護職員の確保

1) 就職説明会

(1) 院内就職説明会の開催 (3月、4月、5月、7月) 78名参加

(2) 外部の説明会への参加

- ・ 県立看護大学就職説明会 (5月)
- ・ ディスコ主催 キャリタス看護フォーラムアスト津 (3月) 29名参加
- ・ 中日新聞主催 看護師就職春ガイダンス吹上ホール (3月) 17名参加

2) 看護大学・学校訪問

(1) 実習校 5校訪問

(2) 出前授業

- ・ 四日市市立塩浜中学校 (11月) 31名参加
- ・ 四日市市海山道公開所 (11月) 約30名参加

3) 広報活動

- ・ 就職説明会、採用試験、インターンシップポスター作成
- ・ ホームページの画面の適宜更新
- ・ ディスコのホームページ、Web (就職ナビ) 登録
- ・ 看護学生への就職説明会等案内 (11月 33人、1月 34人)
- ・ 年賀状郵送 (12月)
- ・ DVD作成

4) インターンシップ開催 (6月、7月、8月、3月) 42名参加

5) 採用試験

- ・定期試験 2回 (6月、7月)

6) 採用内定者への対応

- ・国家試験対策 10月 40名参加
- ・国家試験応援メッセージカード、年賀状郵送
- ・就業前オリエンテーション (3月)

7) 実習環境の充実

- ・実習指導者の育成
三重県看護協会実習指導者講習会に5名が参加し修了
千葉大学看護教育指導者研修に1名が参加し終了
三重県立看護大学に人事交流として1名を派遣し終了
- ・実習施設としての体制づくり
実習環境の整備、院内における実習指導者の育成を検討する委員会に、昨年度に引き続き三重県立看護大学の中西教授を迎え、意見交換を行うとともに助言をいただきながら整備を行った。

2. 職場環境の改善と活性化

1) 変則3交代勤務の定着 (平成26年4月1日)

- ・ガイドラインに沿った看護管理マニュアルの変更
- ・勤務表作成時のチェック表による看護部の確認

2) WLB委員会の取り組みについて

- ・新人研修での制度説明会の実施 (4月) 40名参加
- ・介護に関する制度周知の説明会実施 (9月) 8名参加

3) 看護支援室の活動

●新人看護職員技術等の支援

H28年度 ひよっこクラブ出席状況

	4月 7日	4月 11日	4月 12日	4月 14日	4月 20日	4月 27日	5月 6日	5月 12日	5月 18日	5月 26日	6月 2日
合計	0	29	7	14	10	18	14	25	3	3	5

ひよっこクラブ実施技術内容

研修実施日	実施技術内容
4月7日	研修時間内にパソコン操作実施できたため開催せず
4月11日	採血
4月12日	採血、輸液管理

4月14日	採血、輸液管理
4月20日	採血
4月27日	採血、輸液管理、薬液吸い上げ、挿管チューブ固定
5月6日	採血、輸液管理
5月12日	採血、輸液管理、尿留置カテーテルの扱い
5月18日	採血
5月26日	採血
6月2日	輸液管理

4) 業務改善活動

(1) TQM活動

・院内TQM発表会 15題 内、看護部13題

(2) 活動報告会を行い、各セクション、委員会、認定看護師の活動内容を共有した。

3. 人材育成

1) BSCシートを活用した目標管理

看護部の目標を実現するために、どのような取組みが効果的か作戦を練り、部署全体で理解・共通させる道具（BSCシート）を用いている。院長シートに基づいて看護部長シートを作成。看護部長シートに基づき、看護師長、認定看護師がそれぞれBSCシートを、スタッフは師長のBSCシートに基づき私の目標シートを作成した。

進捗管理を行いながら、看護部長と看護師長・副師長の部署面談や、看護師長・副師長と看護師の個人面談を年3回行った。年度末には、師長によるBSCの取組結果の報告会を実施している。

2) キャリアラダーによる教育

(1) 平成27年度より修正版のキャリアラダーの活用を開始した。

- ・ラダーとして、ステップN（新人）・I・II・III・IV・スペシャリストに分類し、研修を企画・開催している。
- ・助産師については、日本看護協会の助産師のクリニカルラダーに沿ったラダーを作成し、運用を開始した。
- ・平成29年度からはジェネラリストの内容を定め運用を開始する。

(2) ラダー研修

- ・実践能力項目を、実践、管理、教育、研究、対人関係とし、ステップのステップ別教育として、段階的に研修を企画・開催した。
- ・業務に必要な研修、指導者育成研修、専門コース研修を企画・開催した。

(3) 新人看護師育成研修

新人看護職員研修要綱を見直し検討しながら、フォローアップ研修では演習を多く取り入れた。多重課題シミュレーションやローテーション研修を行い、実践的な研修を行った。

(4) 看護師長・副師長にはマネジメントラダーを作成し、運用を開始した。

- ・新任師長、副師長研修として、年間5回の管理研修を行った。

- ・師長・副師長対象合同研修を6回、師長対象研修を1回、副師長対象研修を2回開催した。
- (5) 三重県看護協会のファーストレベル研修を3名が、セカンドレベル研修を1名が受講し修了した。
- (6) その他
- ・院内研修のみならず、三重県看護協会や日本看護協会、自治体病院協議会等の研修も活用している。

3) 地域医療への貢献

研修名	参加人数
がん化学療法サポーターブケア：11回開催	23
健康講座（遠隔配信）1回開催	13
地域（海山道）での「家族が認知症かなあと思ったらどうすればよいか」研修会	30
塩浜中学校（中2対象）での「命の大切さについて」研修会	30
合計	96

4) 学生実習の受け入れ

(1) 看護学生実習受け入れ状況（延べ人数）

学校名	人数
三重県立看護大学（大学院含む）	1516
四日市看護医療大学（大学院含む）	646
三重県立桑名高校専攻科	605
四日市医師会看護専門学校	938
聖十字看護専門学校	60
弥富看護専門学校	44
その他（看護協会など）	208
合計	4017

(2) 高校生一日看護師体験受け入れ

主催：三重県健康福祉部・看護協会

日時：7月28日 8:30～16:00

対象：四日市市内5高校、31人の高校生（1～3学年）

内容：バイタルサイン測定、清潔援助、沐浴、授乳、オムツ交換、散歩、院内見学等

(3) 中学生の職場体験受け入れ

6月に3日間、四日市市立笹川中学から中学2年生3人を受け入れた。

内容は、AEDの使い方、バイタルサイン測定、清潔援助、移送介助、院内見学等

(4) 養護教諭学科の学生受け入れ

1月～2月に名古屋学芸大学の4名、2月に鈴鹿短期大学の1名を受け入れた。
外来、病棟、内視鏡室、救急外来などでの見学や実習等を実施。

(5) 三重県看護協会主催の潜在看護師等復職プログラム研修

10月に上記研修を開催し、3日間の講義と1日間の実習を実施。
潜在看護師10名を受け入れた。

(3) 中央放射線部

【平成28年 総患者数】

平成28年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均/月	集計
透視	3,038	3,115	3,261	3,026	3,129	3,205	3,264	3,246	3,163	3,363	3,404	3,471	3,223.75	38,685
血管造影 心臓	136	137	158	124	124	162	141	145	141	177	150	158	146.08	1,753
頭腹部	51	48	52	46	55	66	58	60	45	44	44	57	52.17	626
放射線治療 新規	14	25	14	9	17	24	13	9	10	9	13	12	14.08	169
照射数	25	15	19	15	12	14	12	11	14	6	8	2	12.75	153
(L.G)	279	464	430	364	256	310	265	350	268	245	205	154	299.17	3,590
CT 単純	28	18	19	20	14	17	18	16	16	9	9	3	15.58	187
造影	1,438	1,395	1,458	1,451	1,392	1,470	1,456	1,457	1,460	1,523	1,443	1,470	1,451.08	17,413
CT (治療)	205	207	225	204	214	261	211	224	216	199	204	214	215.33	2,584
(病診連携)	23	15	22	13	12	13	14	9	14	7	7	3	12.67	152
RI	52	76	71	79	78	90	84	63	73	77	73	52	72.33	868
(病診連携)	76	78	90	73	84	91	76	89	90	78	94	83	83.50	1,002
MR I (1.5T) 単純	2	2	6	4	5	1	3	9	1	5	2	6	3.83	46
造影	179	190	195	188	173	201	184	174	172	47	26	213	161.83	1,942
MR I (3.0T) 単純	42	37	61	44	31	68	39	41	36	10	17	61	40.58	487
造影	234	278	261	246	242	297	263	282	255	315	305	225	266.92	3,203
(病診連携)	69	73	90	65	77	91	76	63	74	87	88	45	74.83	898
超音波 心臓	73	82	78	91	66	97	80	72	58	59	54	64	72.83	874
腹部	396	442	459	368	433	408	411	461	388	381	379	416	411.83	4,942
血管等	321	362	406	372	399	443	386	427	375	378	341	371	381.75	4,581
(病診連携)	254	296	318	255	287	267	278	266	284	273	261	238	273.08	3,277
コピ (CD, DVD, Film)	13	8	6	11	13	15	8	17	11	4	6	6	9.83	118
取込み	237	245	298	259	290	298	269	295	250	319	244	279	273.58	3,283
合計	221	266	281	234	255	267	255	276	249	268	290	287	262.42	3,149
合計	7,266	7,706	8,117	7,376	7,496	7,973	7,689	7,901	7,520	7,738	7,532	7,762		92,076

	1~3	4~6	7~9	10~12	総計
病診連携/CT	5.26	5.71	5.12	4.33	5.10
病診連携/RI	4.10	4.03	5.10	5.10	4.58
病診連携/MRI	13.63	14.74	12.66	12.30	13.33
病診連携/US	0.83	1.21	1.10	0.53	0.92

(4) 中央検査部

◆中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	白木克哉(検査部長) ・ 廣森真哉(検査技師長)
認定資格	細胞検査士2名 ・ 輸血認定技師1名 ・ 二級臨床検査士(微生物学)1名 NST療養士2名 ・ 神経生理認定技術師1名・医療機器情報コミュニケーター1名 超音波検査士(循環器)1名・臨床工学技士2名・糖尿病療養指導士3名 遺伝子分析科学認定士1名 ・ 心血管インターベンション認定技師4名 認定救急検査技師2名 ・ 認定病理検査技師1名
常勤技師	22名
業務補助職員	3名

◆外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
6月	日本臨床検査技師会精度管理調査	日本臨床検査技師会
8月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9月	臨床検査精度管理調査	日本医師会

◆施設認定

- ・ 日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認定
- ・ 日本臨床細胞学会施設認定
- ・ 日本臨床細胞学会教育研修施設認定
- ・ 三重県輸血療法委員会 I&A 認定

◆診療支援

支援	内容
感染症レポート	週報、月報
病棟採血管準備	毎日(各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日(1時間早出)
外来迅速検査報告	24時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

◆病診連携検査件数

トレッドミル	8
ホルター心電図	1
脳波	6
ABI	9
神経生理検査	27
呼吸機能検査	1
計	52

◆検査件数

H28	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
検体	102,219	105,494	117,078	104,163	102,560	107,069	109,103	114,303	109,922	107,458	107,812	108,882	1,296,063
微生物	2,051	2,201	2,028	1,927	1,898	1,796	2,406	2,179	2,072	2,253	2,314	2,181	25,306
生理	2,004	2,151	2,489	2,023	2,142	2,209	2,157	2,327	2,270	2,192	2,131	2,135	26,230
病理	957	992	1,067	987	917	1,152	1,060	1,064	1,091	1,080	1,121	957	12,445
	107,231	110,838	122,662	109,100	107,517	112,226	114,726	119,873	115,355	112,983	113,378	114,155	1,360,044

(5) 薬剤部

◆ 投薬等に関わる収入

単位：千円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	66,649	53,860	65,795	30,516	22,919	20,051	19,060	21,367	17,116	17,737	20,522	15,360
調剤料収入	176	179	173	139	120	120	146	148	143	134	145	161
調剤技術基本料収入	86	84	87	82	71	68	84	80	78	73	81	87

◆ 薬剤管理指導等の件数

単位：件

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	254	262	254	233	263	266	265	337	291	240	204	193
薬剤情報提供料算定件数	1054	1085	1074	949	910	872	978	986	898	900	899	916

◆ 診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	乳外	合計
1月	92	378	64	178	619	366	164	407	320	90	212	206	1	199	650	685	540	1		5,072
2月	99	378	57	160	663	358	154	386	353	95	215	211		178	699	586	560	2		5,154
3月	101	385	66	186	680	422	164	409	374	137	230	248		207	730	630	641	5		5,617
4月	82	347	68	188	615	369	163	379	323	102	205	210		190	651	623	640	4	18	5,167
5月	87	330	60	191	621	364	167	394	305	116	182	222		199	712	546	568		26	5,079
6月	87	364	49	164	609	385	162	449	377	112	201	217		196	730	666	623	3	33	5,417
7月	79	372	64	192	539	348	145	406	322	123	186	205	1	223	705	606	607	2	35	5,160
8月	100	383	64	175	606	398	162	433	340	120	179	229		194	708	619	669	8	44	5,431
9月	92	350	49	171	522	375	150	427	340	134	184	209		199	660	639	694	4	46	5,244
10月	117	340	62	194	678	390	157	401	334	148	195	219	1	192	699	675	667	7	39	5,516
11月	91	375	66	188	720	383	155	375	327	118	182	220	2	197	660	638	662	4	51	5,414
12月	134	355	59	204	688	391	147	411	344	139	175	197		189	712	700	639	1	60	5,645
	1,161	4,357	720	2,191	7,560	4,549	1,870	4,877	4,059	1,434	2,346	2,593	5	2,363	8,316	7,513	7,510	41	350	63,816

全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	乳外	合計
1月	335	516	67	186	793	463	193	459	366	106	229	257	1	222	691	668	612	2		6,156
2月	333	498	60	169	865	465	176	424	411	107	230	275	4	205	739	667	619	11		6,258
3月	316	536	70	192	875	523	193	452	428	152	250	310	0	235	780	704	714	10		6,740
4月	267	465	60	193	777	485	194	418	368	109	215	275	0	215	701	690	689	7	21	6,149
5月	264	444	63	199	771	471	199	439	347	127	193	281	1	222	762	601	608	2	29	6,023
6月	245	482	52	168	744	494	189	485	423	123	213	271	1	222	782	731	661	5	39	6,330
7月	260	479	66	206	743	465	183	453	369	135	211	265	1	239	751	672	648	7	37	6,180
8月	286	511	67	185	794	486	199	477	377	128	192	297	3	224	758	692	724	13	47	6,460
9月	234	469	53	174	679	464	185	467	385	141	198	277	2	222	704	704	734	9	47	6,148
10月	311	456	65	204	867	454	182	439	381	163	203	276	3	214	718	722	699	9	42	6,408
11月	272	470	68	197	945	447	181	406	373	124	189	277	3	228	687	690	680	5	54	6,296
12月	367	453	62	213	917	441	171	447	383	145	184	260	1	211	742	741	662	5	66	6,471
	3,490	5,779	753	2,286	9,770	5,648	2,245	5,366	4,611	1,560	2,507	3,321	20	2,659	8,815	8,272	8,050	85	382	76,619

◆ 院外処方率

単位：% (休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	82.4%	82.4%	83.3%	84.0%	84.3%	85.6%	83.5%	84.1%	85.3%	86.1%	86.0%	85.7%

(6) 栄養管理室

◆平成28年 年間栄養指導件数

	入院 外来 合計	個別指導			集団指導
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	母親教室 (名)
1月	60	55	35	20	5
2月	74	65	29	36	9
3月	61	66	38	28	4
4月	84	77	41	36	7
5月	65	79	40	39	10
6月	116	101	39	62	15
7月	114	105	51	54	9
8月	104	96	44	52	8
9月	89	79	35	44	10
10月	98	89	34	55	9
11月	107	96	41	55	11
12月	101	91	39	52	10
合計	1073	999	466	533	107

◆平成28年 栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	1	1	1	3	4	4	3	3	1	1	5	4	31
高血圧症	5	6	7	7	4	8	7	9	7	4	4	8	76
心臓病	12	14	18	18	20	9	21	16	14	19	29	20	210
肝臓病	1	0	4	1	0	2	3	4	5	5	7	4	36
糖尿病	21	17	20	24	33	43	26	27	30	29	16	26	312
潰瘍	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
膵臓病	1	1	0	0	0	0	5	2	0	0	1	0	10
脂質異常症	1	4	1	3	0	6	7	7	4	5	2	6	46
肥満症	2	5	2	4	1	3	5	2	1	5	4	7	41
妊娠中毒症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
炎症性腸疾患	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
貧血症	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3
癌				5	5	12	12	12	10	14	20	9	99
嚥下				2	3	2	1	2	1	0	2	3	16
低栄養				1	0	1	1	0	0	1	1	0	5
その他	11	17	12	8	7	11	10	9	5	6	5	4	105
合計	55	65	66	77	79	101	105	96	79	89	96	91	999

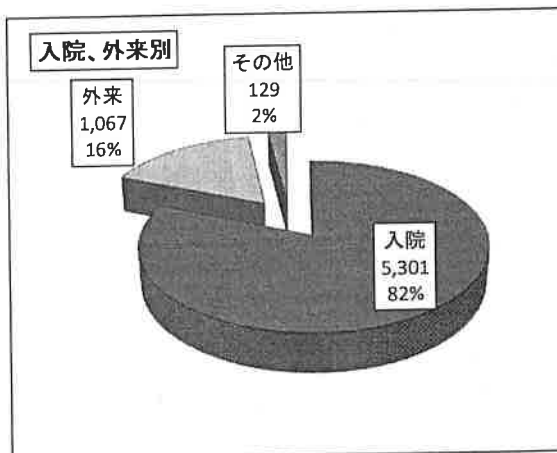
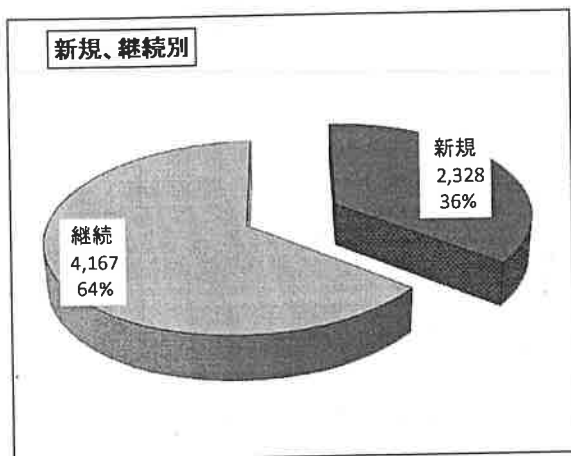
◆平成28年 給食食数実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	10,180	10,148	10,722	10,407	10,072	10,374	10,975	10,951	10,614	11,764	10,713	10,326
常食	7,108	7,594	8,060	7,897	7,558	7,806	7,990	7,985	7,606	8,507	8,157	7,770
軟食	2,988	2,480	2,562	2,388	2,429	2,472	2,866	2,803	2,842	3,131	2,426	2,400
流動食	84	74	100	122	85	96	119	163	166	126	130	156
特別治療食	11,028	11,919	12,155	11,072	11,674	11,105	11,497	11,077	11,312	11,312	10,611	11,203
加算食	7,099	6,928	7,069	6,127	7,084	6,834	7,142	6,679	6,508	6,742	6,554	7,064
非加算食	3,929	4,991	5,086	4,945	4,590	4,271	4,355	4,398	4,804	4,570	4,057	4,139
腎臓食	348	188	568	376	233	328	93	537	471	426	403	240
糖腎食	217	341	260	292	123	45	23	132	81	157	77	144
透析食	92	65	30	22	79	157	69	23	45	92	171	108
経腸高血圧・糖尿食	14	49	108	41	44	66	34	89	22	42	35	30
減塩食	3,176	3,099	2,769	2,958	3,046	2,749	3,378	2,857	2,573	2,529	2,753	3,168
肝臓食	387	261	201	164	202	258	280	230	196	191	279	186
EC食	1,900	1,482	2,027	1,296	1,961	1,977	1,674	1,160	1,477	1,335	1,279	1,629
脂質異常症食	6	74	63	83	52	16	4	40	0	63	79	133
貧血食	29	156	57	47	183	144	69	104	167	338	289	51
脂肪制限食	356	281	138	175	280	275	640	421	422	513	366	550
潰瘍食	32	10	0	7	0	4	121	25	8	40	32	18
炎症性腸疾患	0	4	14	0	27	21	40	109	84	37	2	39
濃厚流動食	1,009	1,666	1,810	978	1,283	1,182	1,118	1,159	1,018	1,264	879	1,297
術後食	467	763	652	546	719	621	616	884	776	863	658	649
易消化食	89	111	227	233	310	66	200	105	112	79	144	104
低残渣食	253	345	397	144	297	212	269	221	342	278	200	347
離乳食	145	200	150	252	219	184	157	181	190	121	267	197
嚥下訓練食	1,578	1,688	1,510	2,034	1,436	1,653	1,487	1,399	1,848	1,612	1,329	1,288
検査食	0	0	2	0	3	3	3	0	2	0	0	0
その他	812	793	1,047	1,310	1,059	1,030	1,104	1,283	1,364	1,214	1,255	907
ミルク	118	111	118	114	118	114	118	118	114	118	114	118
合計	11,028	11,687	12,148	11,072	11,674	11,105	11,497	11,077	11,312	11,312	10,611	11,203

(7) 地域連携課

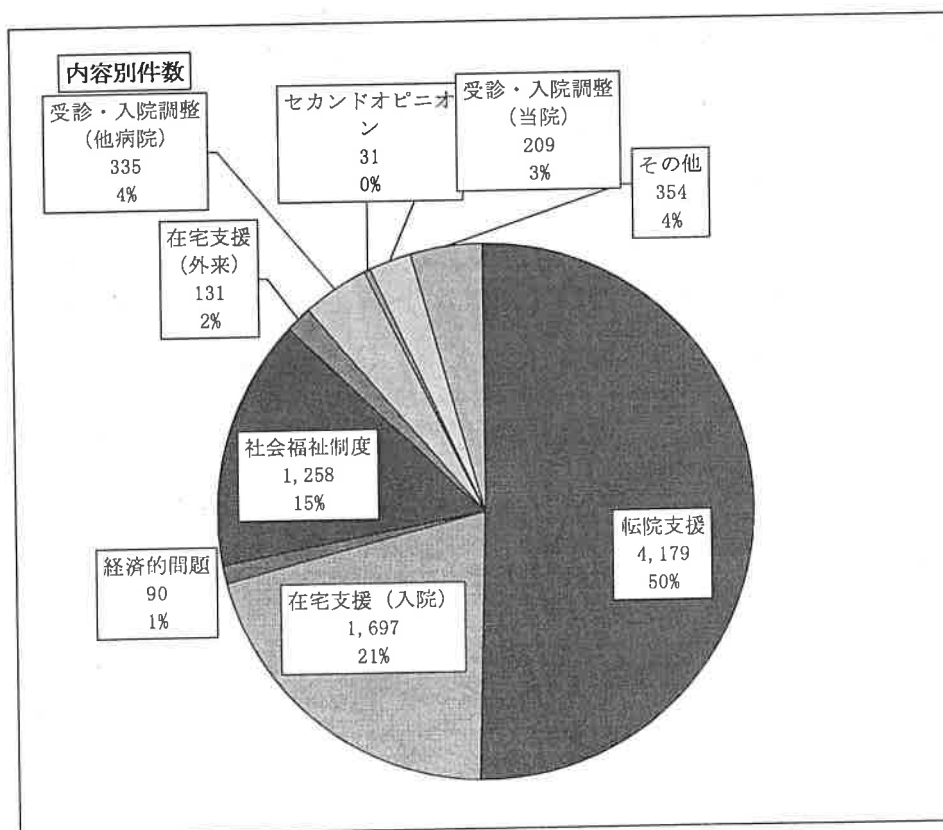
1、平成28年度医療福祉相談件数

新規				継続				合計			
入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計
1,686	579	63	2,328	3,615	488	64	4,167	5,301	1,067	129	6,497



2、平成28年度内容別相談件数

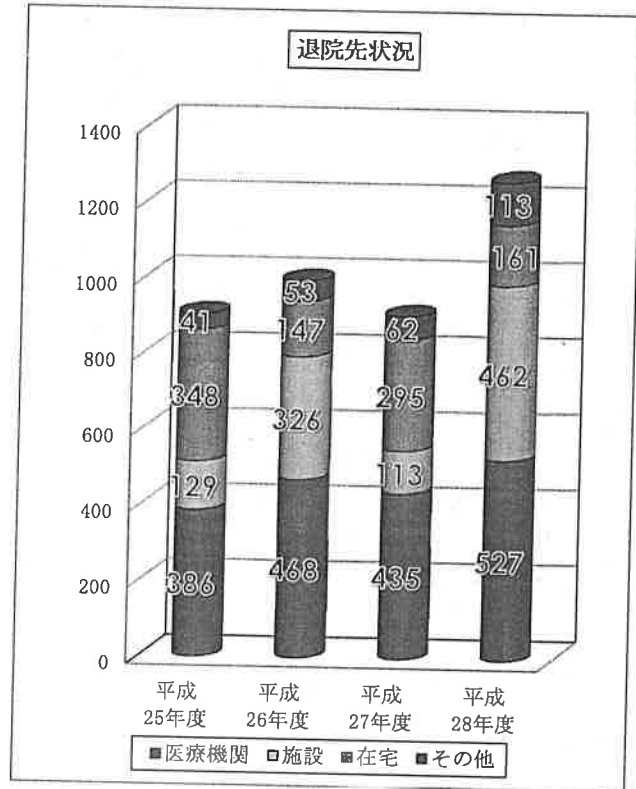
転院支援	在宅支援 (入院)	経済的問題	社会福祉 制度	在宅支援 (外来)	受診・入院 調整 (他病院)	セカンドオ ピニオン	受診・入院 調整 (当院)	その他	計
4,179	1,697	90	1,258	131	335	31	209	354	8,284



3、退院先状況

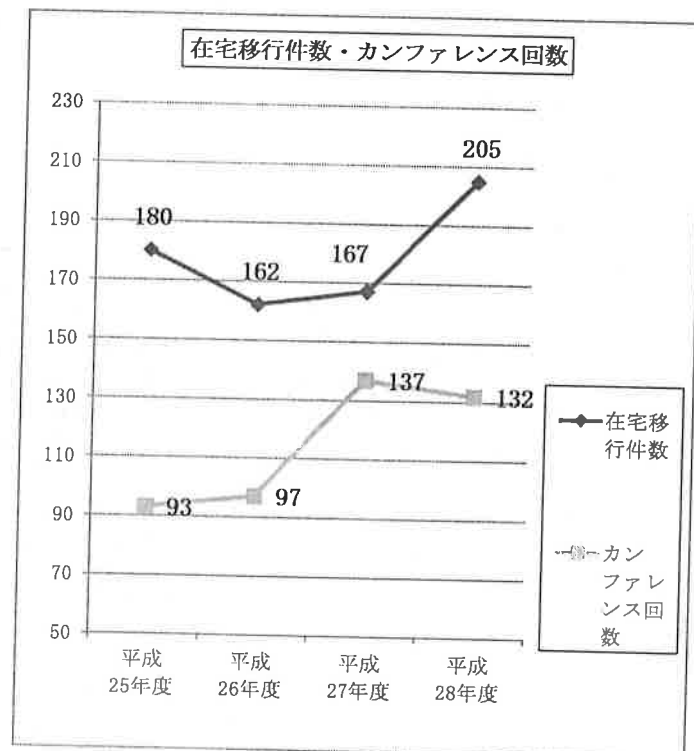
年度 退院先	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
医療機関	386	468	435	527
施設	129	326	113	462
在宅	348	147	295	161
※その他	41	53	62	113
計	904	994	905	1263

※その他 = 自宅で待機、死亡等



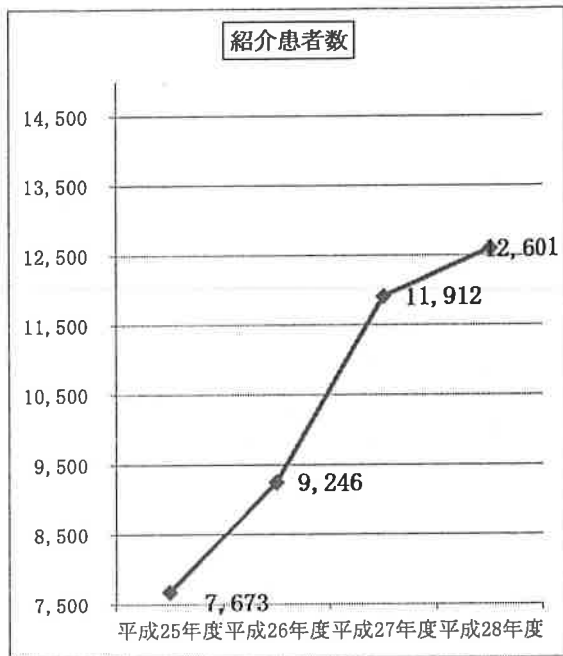
4、在宅移行件数・退院時カンファレンス開催回数

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
在宅移行件数	180	162	167	205
カンファレンス回数	93	97	137	132



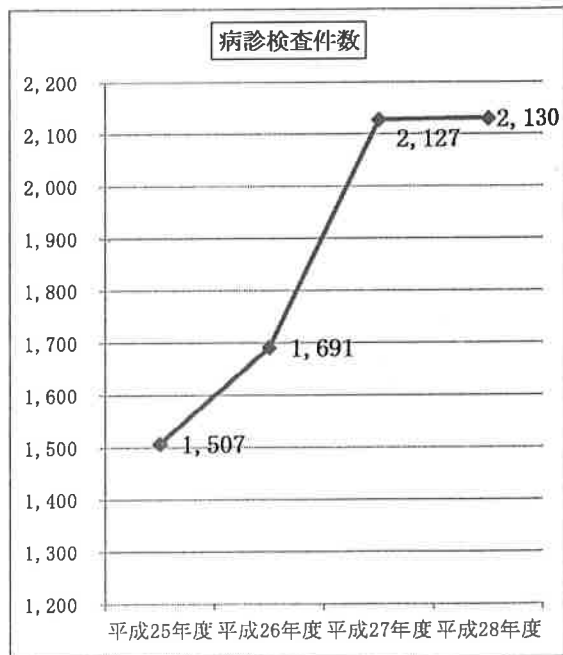
5、紹介患者数（科別）

診療科	年度			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
内科	104	296	262	314
循環器科	649	689	990	954
消化器科	983	1,019	1,507	1,635
呼吸器科	648	816	982	1,149
外科	498	642	817	744
心外科	202	170	222	191
呼吸器外科	18	23	39	49
脳外科	238	305	456	526
小児科	473	759	891	1,124
産婦人科	865	1,099	1,240	1,295
整形外科	903	896	1,009	1,044
皮膚科	283	287	481	411
泌尿器科	255	297	371	384
耳鼻いんこう科	43	139	299	287
精神科	26	29	33	33
神経内科	341	466	516	518
放射線科	1,075	1,241	1,707	1,811
眼科	69	73	90	132
合計	7,673	9,246	11,912	12,601



6、病診連携検査 検査種類別件数

検査種類	年度			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
CT	664	715	843	867
MRI	524	553	820	843
甲状腺エコー	8	12	13	11
腹部エコー	38	33	27	43
心エコー	40	40	43	41
下肢静脈エコー	9	7	8	6
下肢動脈エコー	2	1	2	2
頸動脈エコー	11	11	14	15
胃透視	0	0	0	0
胃カメラ	121	101	100	72
トレッドミル	12	11	8	10
ホルターEKG	1	2	1	1
脳波	31	33	24	7
神経生理検査	15	22	32	27
ABR	0	0	0	0
ABI	10	2	4	9
マンモグラフィー	0	0	0	0
CF	21	148	188	176
計	1,507	1,691	2,127	2,130

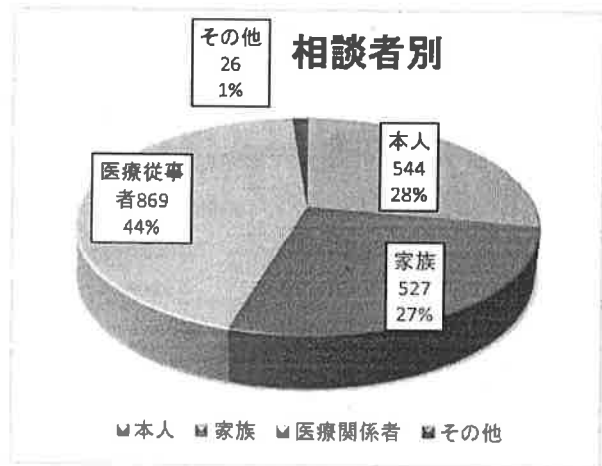
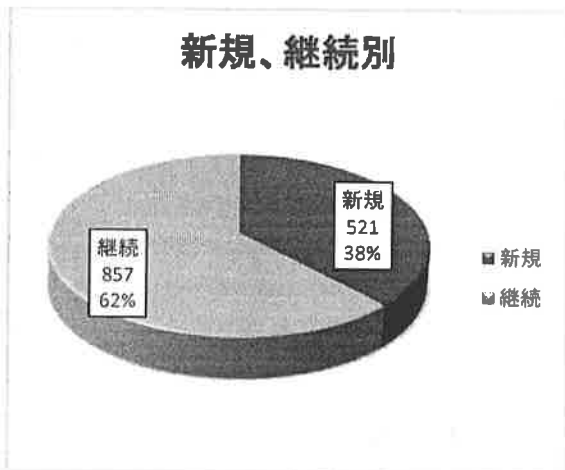
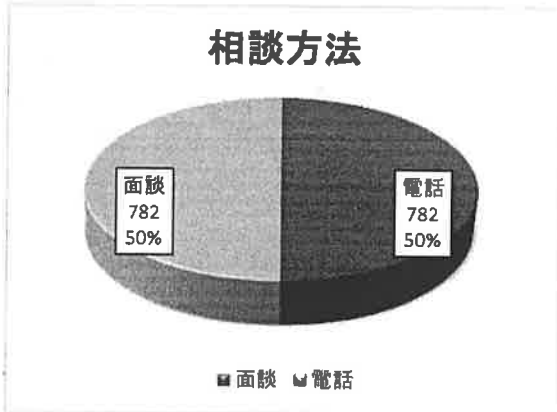


7、平成28年度がん相談支援センター相談実績

がん相談件数 1,378

〈内訳〉

相談方法		新規・継続別		相談者			
面談	電話	新規	継続	本人	家族	医療関係者	その他
782	782	521	857	544	527	869	26



8、平成28年度セカンドオピニオン紹介件数

診療科	件数
産婦人科	1
呼吸器内科	4
呼吸器外科	1
循環器内科	1
消化器内科	1
小児科	1
泌尿器科	2
乳腺外科	1
消化器・一般外科	2

(8) 医療安全管理部

【医療安全対策室】

◆ 平成28年のインシデント・アクシデントについて

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。

○平成28年の総数は1,607件となり、内訳は以下のとおりです。

インシデント（ヒヤリ・ハット）報告：計1,601件

アクシデント報告：計6件

3 b：6件

濃厚な処置や治療を要した場合（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、日数の延長、外来患者の入院、骨折など）

4 a：0件

永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題が伴わない場合

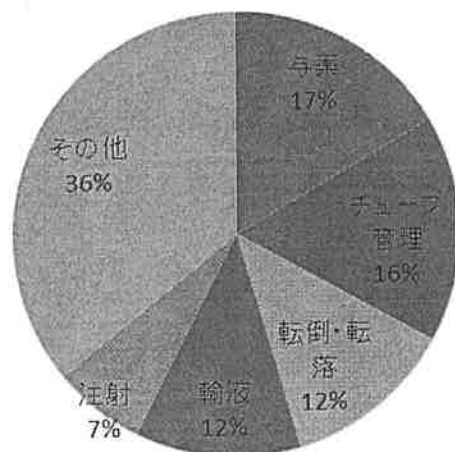
4 b：0件

永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題が伴う場合

5：0件

死亡した場合

分野別報告件数の内訳



【注】

- 与薬： 薬の量や種類、手渡し間違い
チューブ管理：点滴時のチューブの閉塞や抜去
転倒・転落： 歩行時、排泄時の転倒やベッドからの転落
輸液： 点滴速度、点滴時間の間違い
注射： 注射量、注射時間の間違い
その他： 機械類操作、内視鏡以外の検査・処置、食事等

◆ 平成28年に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成28年に実施した主な対策・取組みは次のとおりです。

* 医療安全マニュアルの改訂

* 患者誤認防止の実施

*指差し呼称確認の実施

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

◆ 研修会の実施について

毎年2回、職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

平成28年第1回目の研修は11月に医療安全研修を実施しました。医療事故防止マニュアルのビデオを上映し、指差呼称の重要性について学びました。

第2回目の研修は12月に医療安全管理研修会を実施しました。医療事故等の様々な事例を紹介していただきその原因について解説するとともに、危機対応能力に優れた組織・職場環境について考える機会としました。

第1回 平成28年11月14日～16日

研修名 医療安全研修会

DVD視聴「医療事故防止マニュアル

医療事故のメカニズム～エラー防止より事故防止」

第2回 平成28年12月12日

研修名 事例で学ぶ医療安全

講師 三重大学医学部附属病院

医療安全・感染管理部 部長 兼兒 敏浩 教授

◆ 院内迷惑行為対策について

近年、患者や家族等から病院職員に対する暴言・暴力行為など、病院の運営を妨げる迷惑行為が全国の病院で問題となっています。当院では院内でのこのような迷惑行為に対し、医療安全対策室が中心となり対策に取り組んでいます。平成22年度からは警察OB職員を院内に配置し体制を強化しております。

【感染対策室】

病院には、感染症の治療のため入院される患者さんや、病気や治療の結果から感染症にかかりやすくなっている患者さんなど様々な状態にある患者さんがみえます。安全かつ適切な医療を提供するため、具体的かつ実践的に院内感染対策を実行する実務組織として、院内感染対策チーム（Infection Control Team）があり、感染対策室はその事務局を担っています。

◆院内感染対策チーム（ICT）構成メンバー

リーダー：感染対策室 室長（専従 感染管理認定看護師）

メンバー：感染症専門指導医（専任）1名、ICD 3名、プレICD 3名、

感染管理認定看護師（兼任）1名、薬剤師 2名（内1名はICD）

細菌検査技師 4名（内3名は 感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT））

事務 1名。

◆実績

1. 地域支援ネットワーク事業への参画

院内感染防止対策については、平成24年度診療報酬改定で、地域ネットワークの要素が加わり、感染防止対策加算2を算定する医療機関と4回/年合同カンファレンスを開催し、加算1の連携医療機関と1回/年の相互評価を実施しています。平成26年度改定で、感染防止対策加算1の要件として、地域や全国のサーベイランス（JANIS）への参加が必須となりましたが、当院は2012年より検査部門、全入院患者部門に参加しています。

平成28年度改定では、加算1の施設基準に感染制御チームによる1週間に1回程度の院内巡回（ラウンド）の規定が設けられました。平成27年度より1週間1回のラウンドは実施していましたが、「少なくとも2名以上で、病棟ごとの院内感染や耐性菌の発生のリスクの評価を定期的に行っている場合には、少なくともリスクの高い病棟を毎回巡回し、それ以外の病棟についても巡回を行っていない月がないこと。患者に侵襲的な手術・検査等を行う部署についても、2ヶ月に1回以上巡回していること。」が求められました。

そのため、この要件を満たすよう、ラウンド項目の見直しを行い、毎週ラウンドを5部署、その他の病棟は月1回、透析・化学療法、手術室、内視鏡センターは2ヶ月に1回実施としました。あわせて、院内掲示板でのフィードバック、各部署へのフィードバックを行ってききましたが、徐々にフィードバック資料の作成が遅れているため、次年度への課題とします。

平成27年度より、三重県感染対策支援ネットワーク（Mie Infection Control Network：MieICNet）運営にも参画しており、引き続き、県内の医療機関が行う感染対策の取り組み支援にも努めていきます。

2. サーベイランス

次のとおり、各種サーベイランスを継続し、感染対策の確認、指導に活用しています。

(1) 高度耐性菌、ESBL産生菌、CD、血液など無菌材料からの細菌検出状況、

MRSA 検出状況、抗MRSA薬使用状況、カバ[®]ペ[®]系抗菌薬使用状況。

(2) 抗MRSA薬TDM実績、抗菌薬使用実績まとめ。（薬剤部）

- (3) アンチバイオグラム (主要菌種)、材料別、病棟別分離菌のまとめ、ESBL 耐性菌、高度耐性菌分離割合、流行性ウイルス検出状況など。(細菌検査室)
- (4) 針刺し・切創報告集計、分析。
- (5) 厚生労働省「院内感染対策サーベイランス事業」JANIS への登録
全入院患者部門、検査部門に参加。
- (6) 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス (外科病棟)
- (7) 日本看護協会 DiNQL 事業への参加。
3 病棟で、中心静脈カテーテル関連血流感染 (外科病棟以外)、カテーテル
関連尿路感染、人工呼吸器関連肺炎サーベイランスを実施。

3. 院内ラウンド

毎週 (木) 15時～検討会を行い、その後ICTメンバー3名でチェックリストを用いて現場をラウンドし、遵守状況を評価しています。平成28年度感染防止対策加算の施設基準に追加された要件を満たすよう内容を見直し、実施しました。他部署の結果も参考にできるよう、院内全体にも定期的に掲示を行いました。部署名はブラインドとしたため、改善にむけて参考部署で実際に確認ができるよう、次年度より部署名をOPENにしていく方向で検討しています。リンクナースラウンドにもICTメンバーが参加することで、問題の共有ができたため、次年度も継続していきます。

4. 感染管理教育 (院内)

- 2月 全職員 院内感染防止研修会「ESBL, Am p-C産生菌って何だ？」
- 4月 新人看護師 スタンダードプリコーション、職業感染対策、輸液・静脈注射における感染管理、洗浄・消毒・滅菌、感染防止技術
研修医 感染防止対策の基本他、感染症の治療、感染症薬剤治療効果・TDM、
細菌検査実習 (ICTメンバーで分担)
- 6月 看護補助職員 感染経路別予防策と個人防護具の選択
- 11月 看護補助職員 注目すべき薬剤耐性菌等とその対策
- 12月 全職員 院内感染防止研修会「病院環境を見直そう」
(ICT, リンクナースで実施)

5. 職業感染対策

- (1) B型肝炎、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎ウイルスの抗体価測定。
- (2) (1) の陰性者へワクチン接種。(入職者と現職者で未実施の職員に実施)
- (3) 結核健診 (5月、10月)
- (4) インフルエンザワクチン接種 (10月)

6. 新型インフルエンザ等の新たな感染症に対する対応、整備

- (1) 「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画 (BCP) (案)」(平成 26 年度作成) について、院内感染防止委員会で審議・決定するとともに、院内掲示板への掲載等により、職員への周知を図りました。
- (2) 四日市港における検疫措置訓練への参加 (新型インフルエンザを想定した防護服着脱訓練など)

- (3) 5月「黄熱」「ジカウイルス感染症(続報)」に関する情報提供について
8月「ジカウイルス感染症他、検疫感染症の発生動向」について情報配信。
- (4) 三重県新型インフルエンザ患者入院医療機関設備事業補助について、安全に患者を受け入れるため、6東病棟(657~661待機部屋を含めた隔離や、北側全体の隔離などへの使用を目的とした「空気感染隔離ユニット」の29年度購入を申請しました。引き続き、経営企画課、施設課と確認しつつ、準備を進めていきます。

7. 感染対策上問題となる環境や業務内容についての見直し、改善、指導

- (1) 泌尿器科外来の吸引器導入。(用手洗浄の廃止)
- (2) 手術部位の皮膚消毒薬についての選定、新規導入。(手術部位感染予防に有用性が示されているクロルヘキシジングルコン酸塩エタノール消毒液1%)
- (3) 採血後の分注時針刺しを防止するため、分注用デバイスを導入しました。
- (4) 結核疑い患者の喀痰診断を優先的、かつ、安全に実施するため、呼吸器センターへの採痰ブース設置に向け準備中。
- (5) MRSA対策として、培養結果の確認、対策実施が速やかに開始できるよう検出時の報告体制見直し。
- (6) 汚物槽の水洗について、自動センサーへの交換を施設課に依頼。
(用手操作による交差感染防止)

8. 感染防止マニュアル改訂、作成

- (1) 手指衛生：速乾性手指消毒薬の「開封日」「とりかえ目安日」の記載について追加。
- (2) 廃棄物：2016年4月1日からの四日市市の分別変更に伴い改訂。
- (3) 当院における接触予防策を要する病原体のレベル別分類表を追加。
- (4) 滅菌：ラウンド結果より、滅菌物取扱い上の注意点について見直し、改訂。
- (5) 職員結核健診について：「判定保留」についてすべて受診をすすめていたが、
明らかな曝露歴がない限り、次回健診で再検実施に変更。

9. 感染症法による発症届 報告

- ◎2類感染症 結核：15件
(参考：2015年17件、2014年16件、2013年16件、2012年18件)
- ◎3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症(O157)：3件
(参考：2015年0件、2014年1件、2013年2件、2012年3件)
- ◎4類感染症 レジオネラ症：2件
(参考：2015年E型肝炎：1件、レジオネラ症：2件)
- ◎5類感染症
劇症型溶血性レンサ球菌感染症：1件(参考：2015年1件、2014年1件)
梅毒：1件(参考：2015年0件、2014年1件)
後天性免疫不全症候群：1件(参考：2015年0件、2014年4件、2013年5件)
侵襲性肺炎球菌感染症：6件(参考：2015年3件、2014年2件)
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：1件(参考：2015年1件)

(9) 学会・研究会発表及び論文発表実績

呼吸器内科

<学会・研究会発表>

- 第 57 回日本肺癌学会学術集会 2016. 12. 19～12. 21 福岡国際会議場、他
「肺癌化学療法中に感染性肝嚢胞を合併した肺小細胞癌の一例」
前田光、寺島俊和、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

- 第 127 回日本結核病学会東海地方学会・第 109 回日本呼吸器学会東海地方学会
2016. 5. 21～5. 22 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）
 - ・「Wallenberg 症候群を契機に発見された肺小細胞癌延髄転移の 1 例」
水谷広樹、児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「肺癌化学療法中に感染性肝嚢胞を合併した肺小細胞癌の一例」
稲垣雅康、児玉秀治、笹邊淳、寺島俊和、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「当院において入院加療を行った気胸症例の検討」
笹邊淳、児玉秀治、寺島俊和、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「人工呼吸器管理を要した Haemophilus influenzae による重症の急性細気管支炎の 1 例」
児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「パニツムマブによる薬剤性肺障害が疑われた 1 例」
寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

- 第 128 回日本結核病学会東海地方学会・第 110 回日本呼吸器学会東海地方学会
2016. 11. 5～11. 6 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）
 - ・「薬剤性肺障害のためニボルマブ休薬中も腫瘍縮小効果を認めた肺腺癌の 1 例」
田島祐、児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「肺炎死亡症例における死因の検討」
寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「COPD 増悪入院症例における末梢血好酸球数と治療内容についての検討」
児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「胸膜発生高分化乳頭状中皮腫の 1 例」
後藤広樹、児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「気胸治療におけるクランプテスト後の再虚脱率の検討」
笹邊淳、児玉秀治、寺島俊和、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

- 第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会・第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 86 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 2016. 11. 24～11. 26 沖縄コンベンションセンター
 - ・「Broad range PCR で診断した *Bartonella henselae* による猫ひっかき病の 1 例」
寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道
 - ・「KL-6 高値が診断に影響を及ぼした肺結核・気管支結核の 1 例」

油田尚総、寺島俊和、前田光、藤原篤司、吉田正道

- 第6回北勢地区 Air Way Forum 2016.3.11 四日市都ホテル

「当院における ICS/LABA 配合剤の使用経験」

寺島俊和

- Scientific Exchange Meeting in Yokkaichi 2016 2016.7.5 四日市都ホテル

「臨床から見る咳嗽診断 ～症例を中心に～」

前田光

- 第124回三重胸部疾患症例検討会 2016.9.20 ホテルグリーンパーク津

「胸部異常影」

油田尚総

<講演>

- 喘息/COPD 連携フォーラム 2016 2016.8.30 プラトンホテル四日市

「COPD の総合評価 ～COPD 患者の適切なマネジメントのために～」

吉田正道

- 北勢地区喘息講演会 2016.11.29 四日市都ホテル

「咳喘息の鑑別のために ～咳を訴える患者が来たら～」

吉田正道

- 第359回北勢地区呼吸器談話会 2016.4.18 四日市医師会館

「COPD の総合評価 ～予後を規定しているのは何か～」

吉田正道

- 第336回北勢地区呼吸器談話会 2016.10.17 四日市医師会館

「肺結核 遅延なく診断するために」

油田尚総

消化器内科

<学会・研究会発表>

- 第279回肝胆膵疾患研究会 2016.2.19 三重

「肝切除後再発肝細胞癌の治療後に biloma を合併した2例」

稲垣雅康、大矢由美、西浦祐貴、菅大典、森谷勲、山中豊、井上英和、白木克哉、高瀬幸次郎

- 第280回肝胆膵疾患研究会 2016.5.6 三重

・「慢性肝疾患の血小板減少対策」

- 白木克哉、西浦祐貴、菅大典、森谷勲、山中豊、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎
・「B型肝炎非活動性キャリアに発症した薬物性肝障害の1例」
牛田英里、西浦祐貴、菅大典、森谷勲、山中豊、大矢由美、井上英和、白木克哉、高瀬幸次郎

<英語原著論文>

● Comparison of human gut microbiota in control subjects and patients with colorectal carcinoma in adenoma: Terminal restriction fragment length polymorphism and next-generation sequencing analyses

Chika Kasai, Kazushi Sugimoto, Isao Moritani, Junichiro Tanaka, Yumi Oya, Hidekazu Inoue, Masahiko Tameda, Katsuya Shiraki, Masaaki Ito, Yoshiyuki Takei and Kojiro Takase

Oncol Rep. 2016 Jan;35(1):325-33.

Changes in plasma ghrelin and leptin levels in patients with peptic ulcer and gastritis

following eradication of *Helicobacter pylori* infection

Chika Kasai, Kazushi Sugimoto, Isao Moritani, Junichiro Tanaka, Yumi Oya, Hidekazu Inoue, Masahiko Tameda, Katsuya Shiraki, Masaaki Ito, Yoshiyuki Takei and Kojiro Takase

BMC Gastroenterology (2016) 16:119

循環器内科

<学会・研究会発表>

●第26回国際高血圧学会学術集会 (Hypertension Seoul 2016) 2016.9.24~29 ソウル
【Moderated poster】

「Renoprotective effect of eplerenone in comparison to thiazide diuretic in hypertensive patients with chronic kidney disease」

Toshiki Sawai, Setsuya Okubo, Naoki Isaka, Takehiko Ichikawa, Katsutoshi Makino, Shinya Okamoto, Sukenari Koyabu, Tetsuya Kitamura, Naoki Fujimoto, Kaoru Dohi, Toru Ogura, Tomomi Yamada, Satoshi Tamaru, Masakatsu Nishikawa, Mashio Nakamura, Masaaki Ito, on behalf of the OWASE Study Investigators

Department of Cardiology and Nephrology, Mie University Graduate School of Medicine, Tsu, Japan

●第64回日本心臓病学会学術集会 2016.9.23~25 東京

・【デジタルポスター】

「経時的な心電図変化が捉えられた心尖部肥大型心筋症の一例」

廣田敦也、澤井俊樹、山本重忠、中嶋寛、牧野克俊（三重県立総合医療センター 循環器内科）、柴田宗宏（しばた内科循環器科）、土肥薫、伊藤正明（三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学）

・【ポスター】

「二分脊椎症に劇症型心筋炎を合併し、右房脱血・右鎖骨下動脈送血による PCPS により救命し得た一例」

中嶋寛、澤井俊樹、牧野克俊（三重県立総合医療センター 循環器内科）、土肥薫、杉浦英美喜、中森史朗、栗田泰郎、藤本直紀、山田典一、伊藤正明（三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学）、田辺正樹（三重大学医学部附属病院 医療安全・感染管理部）

●日本内科学会 第 230 回東海地方会 2016.10.16 名古屋

「深部静脈血栓症の増悪を機に診断し得た Trousseau 症候群の一例」

溝口翔子、澤井俊樹、廣田敦也、山本忠重、中嶋寛、牧野克俊（循環器内科）、高瀬幸次郎（消化器内科）

●日本循環器学会 第 147 回東海地方会 2016.6.11～5 浜松

「下肢急性動脈閉塞症の塞栓源の同定に難渋した修正大血管転位症の一例」

松岡千鶴、中嶋寛、廣田敦也、山本重忠、澤井俊樹、牧野克俊（循環器内科）、庄村心、矢田真希、鈴木仁之、近藤智昭（心臓血管外科）

●日本循環器学会 第 148 回東海・第 133 回北陸合同地方会 2016.11.4～5 金沢

・「深部静脈血栓症の増悪を機に診断し得た Trousseau 症候群の一例」

溝口翔子、澤井俊樹、廣田敦也、山本忠重、中嶋寛、牧野克俊

・「非感染性心内膜炎を合併した Trousseau 症候群の一剖検例」

池澤宗成、澤井俊樹、廣田敦也、山本忠重、中嶋寛、牧野克俊（循環器内科）、草野五男（病理）

<論文>

●「一過性の側副血行路を認めた冠攣縮性狭心症の一例」

山本重忠、廣田敦也、平林陽介、中嶋寛、森木宣行、牧野克俊

心臓 48: 534-538, 2016

- 「通常培養陰性なるも炭酸ガス培養にて同定された *Granulicatella elegans* による感染性心内膜炎の一例」

山本重忠、廣田敦也、中嶋寛、澤井俊樹、牧野克俊

心臓 48: 1306-1312, 2016

神経内科

<学会発表>

- 第 228 回日本内科学会東海地方会 2016. 2. 21 名古屋国際会議場

「特異な感覚障害を呈した延髄腫瘍の 1 例」

池澤宗成、加藤奈津子、古田智之、鈴木賢治

- 第 230 回日本内科学会東海地方会 2016. 10. 16 名古屋国際会議場

・「多彩な症状を呈した家族性アミロイドポリニューロパチーの 1 例」

別所早紀、古田智之、加藤奈津子、鈴木賢治

・「歯根感染に続発した髄膜炎、両側海綿静脈洞炎の 1 例」

林恒賢、青木一晃、加藤奈津子、古田智之、鈴木賢治

消化器・一般外科

<学会・研究会発表>

- 三重断酒会講演 2016. 2. 21 四日市 (三重)

「アルコール関連問題における連携の強化 (救命救急医療から)」

伊藤秀樹

- 第 9 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 2016. 2. 28 新宿 (東京)

「当院における大腸カプセル内視鏡検査の前処置の工夫」

岩田崇、池田哲也、尾嶋英紀、大村悠介、山本晃、渡部秀樹、横江毅、小西尚巳、伊藤秀樹、井上英和、登内仁

- 三重県カプセル内視鏡セミナー 2016. 3. 10 津 (三重)

「当院の大腸カプセル内視鏡検査の現況と今後について」

岩田崇、尾嶋英紀、池田哲也

- 2016 年北勢緩和ケアネットワーク医療者向け研修会 2016. 3. 10 四日市 (三重)

「三重県立総合医療センターにおける緩和ケア部門の設置と充実に向けた取り組み」

渡部秀樹

- 第 116 回日本外科学会定期学術集会 2016. 4. 14~16 大阪 (大阪)

・「術前化学放射線療法後の腹腔鏡下低位前方切除術に関する検討」

尾嶋英紀、岩田崇、大村悠介、山本晃、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、小西尚巳、池田哲也、登内仁

- ・「潰瘍性大腸炎術後回腸囊炎発症と大腸全摘時回腸粘膜中 Interferon- γ の発現との関連性」

川村幹雄（三重県立総合医療センター消化器・一般外科）、荒木俊光、大北喜基、近藤哲、長野由佳、市川崇、三枝晋、廣純一郎、間山裕二、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦（三重大学消化管小児外科）、小林美奈子、大井正貴、楠正人（三重大学先端的外科技術開発学）

●第102回日本消化器病学会総会 2016.4.23 新宿（東京）

「大腸全摘時回腸粘膜における Th1, Th2, Th17 cytokine profile と回腸囊炎発症の関連性」

川村幹雄（三重県立総合医療センター消化器・一般外科）、荒木俊光、大北喜基、近藤哲、長野由佳、市川崇、三枝晋、廣純一郎、間山裕二、田中光司、井上靖浩、内田恵一、毛利靖彦（三重大学消化管小児外科）、小林美奈子、大井正貴、楠正人（三重大学先端的外科技術開発学）

●第291回東海外科学会 2016.4.29 名古屋（愛知）

「空腸穿孔を契機に診断し得たガストリノーマの1例」

大村悠介、登内仁、横江毅、山本晃、岩田崇、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也

●第286回三重外科集談会 2016.6.12 津（三重）

「Inverted T-shaped anastomosis による腹腔鏡下胃全摘術後再建の経験」

横江毅、大村悠介、野口智史、川村幹雄、岩田崇、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第21回日本緩和医療学会学術大会 2016.6.17~18 京都（京都）

「当院における終末期患者に対する苦痛のための鎮静の現状と課題」

渡部秀樹、酒井美紀子、米津祐佳、川瀬佐登美、安藤真弓、高橋実音子、児玉秀治、小林良成、坂倉究、小西邦彦（緩和ケアチーム）

●第71回日本消化器外科学会総会 2016.7.14~16 徳島（徳島）

- ・「クローン病腸管病変に対する術後寛解維持療」

川村幹雄（三重県立総合医療センター消化器・一般外科）、荒木俊光、大北喜基、間山裕二、小林美奈子、大井正貴、田中光司、井上靖浩、毛利靖彦、楠正人（三重大学 大学院消化管・小児外科学）

- ・「当院における腹壁癒痕ヘルニア修復術の成績」

尾嶋英紀、横江毅、大村悠介、山本晃、岩田崇、渡部秀樹、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 2016.7.28 神戸（兵庫）

「進行大腸癌に対して mFOLF0X6+Panitumumab 施行中に薬剤性間質性肺炎を発症した

1例]

岩田崇、尾嶋英紀、寺島俊和、大村悠介、山本晃、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、池田哲也、吉田正道、登内仁

●第71回日本大腸肛門病学会学術集会 2016.11.18~19 伊勢(三重)

・「当院における大腸癌イレウスに対する治療方針の検討」

渡部秀樹、大村悠介、野口智史、川村幹雄、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

・「高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下手術に関する検討」

尾嶋英紀、横江毅、大村悠介、野口智史、川村幹雄、岩田崇、渡部秀樹、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

・「当科におけるKRAS遺伝子変異型進行再発大腸癌に対する化学療法を選択について」

岩田崇、尾嶋英紀、大村悠介、野口智史、川村幹雄、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第29回日本内視鏡外科学会総会 2016.12.10 横浜(神奈川)

「当院における急性胆嚢炎に対する早期腹腔鏡下胆嚢摘出術の有用性の検討」

渡部秀樹、大村悠介、野口智史、川村幹雄、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第287回三重外科集談会 2016.12.11 津(三重)

「下行結腸が陥入した大網裂孔ヘルニアの1例」

大村悠介、渡部秀樹、野口智史、川村幹雄、岩田崇、尾嶋英紀、毛利智美、伊藤秀樹、登内仁

<論文>

●腹腔鏡下修復術を施行した回腸導管傍ストーマヘルニアの1例

山本晃、尾嶋英紀、野口智史、渡部秀樹、池田哲也、登内仁

日臨外 77巻10号 p2592-2597(2016.10)

心臓血管外科・呼吸器外科

<学会・研究会発表>

●第33回 日本呼吸器外科学会総会 2016.5.12~13 京都

「当院における急性膿胸に対する治療戦略：最近1年間の前向き研究と過去5年間との比較」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

●第59回 関西胸部外科学会学術集会 2016.6.16~17 津

「大量胸水で発症した腹膜癌の1例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第 69 回 日本胸部外科学会総会 2016. 9. 29～10. 1 岡山

「続発性気胸に対するリスク評価と治療戦略」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第 57 回 日本肺癌学会総会 2016. 12. 19～21 福岡

・「大量胸水で発症した腹膜癌の 1 例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

・「手術時期に苦慮した間質性肺炎合併原発性肺癌の 1 例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

・「早期に胸膜播種を認めた肺原発淡明細胞腺癌の 1 例」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

<論文>

●胸水貯留を契機に発見された胸膜原発骨肉腫の 1 例

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

日本呼吸器外科学会雑誌 30(1):87-91, 2016

●気管支鏡下生検後の感染により急速に増大した空洞性病変を呈する転移性肺腫瘍の 1 例

鈴木仁之、庄村心、井上健太郎、矢田真希、島本亮、近藤智昭

肺癌 56(1):17-21, 2016

●完全胸腔鏡下に摘出した縦隔海綿状リンパ管腫の 1 例

鈴木仁之、庄村心、井上健太郎、矢田真希、島本亮、近藤智昭

日本呼吸器外科学会雑誌 30(2):83-87, 2016

脳神経外科

<学会・研究会発表>

●第 51 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ 2016. 1. 9

「痛恨の脳底動脈閉塞の 1 例」

梅田靖之、中塚慶徳、安田竜太、当麻直樹、阪井田博司、鈴木秀謙

●第 39 回 CI 学会総会 2016. 1. 29～30 東京

・「多孔質媒体モデル CFD による脳動脈瘤コイル塞栓術の治療効果予測」

梅田靖之、石田藤麿、辻正範、古川和博、安田竜太、当麻直樹、阪井田博司、鈴木秀謙

・「数値流体力学 (computational fluid dynamics, CFD) における脳動脈瘤せん断応力 (wall shear stress, WSS) 評価方法の検討」

深澤恵児、石田藤麿、辻正範、古川和博、芝真人、種村浩、梅田靖之、安田竜太、霜坂辰一、鈴木秀謙

●第 15 回三重・大阪脳血管障害治療研究会 2016. 2. 5

「アクセスが困難だった硬膜動静脈瘻の1例」

梅田靖之、中塚慶徳、安田竜太、当麻直樹、阪井田博司、鈴木秀謙

●第90回日本脳神経外科学会中部支部学術集会 2016.4.9 富山

「85歳以上の超高齢者における脊椎手術症例の検討」

亀井裕介、深澤恵児、岡田健、田代晴彦

●Stroke2016 2016.4.15～16

・「多孔質媒体モデルCFDによる脳動脈瘤コイル塞栓術の中期治療効果予測」

梅田靖之、石田藤麿、辻正範、古川和博、安田竜太、当麻直樹、阪井田博司、鈴木秀謙

・「当院におけるくも膜下出血後の経過においてのTCD値の変動およびMRA所見の検討」

深澤恵児、亀井裕介、岡田健、田代晴彦

●三重大阪脳腫瘍カンファレンス 2016.6.3

「血管新生阻害剤の強力な抗腫瘍効果を実感した膠芽腫の一例」

深澤恵児、亀井裕介、梅田靖之、田代晴彦

●第31回日本脊椎外科学会 2016.6.9～10 東京

・「85歳以上の超高齢者における脊椎手術症例の検討」

亀井裕介、深澤恵児

・「Laminoplasty Basketを用いた頸椎椎弓形成術の短期治療成績の検討」

深澤恵児、亀井裕介、梅田靖之

●FAST in 三重 2016.6.11

「脳底動脈閉塞症の1例」

梅田靖之、深澤恵児、亀井裕介

●三重脊椎脊髄外科治療研究会 2016.6.17

「Laminoplasty Basketを用いた頸椎椎弓形成術の短期治療成績の検討」

深澤恵児、亀井裕介、梅田靖之、田代晴彦、山本章貴

●第57回中部脊椎外科ワークショップ 2016.8.27

「頸椎後方除圧術後に早期再狭窄をきたした後縦靭帯骨化症の一例」

梅田靖之、深澤恵児、亀井裕介

●第82回三重脳神経外科集談会 2016.8.27

「対麻痺をともなった骨粗鬆性胸椎椎体骨折の3例」

梅田靖之、深澤恵児、山本章貴、亀井裕介

●第23回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2016.9.16～17 札幌

「頸椎後縦靭帯骨化症に対し、後方より直接除圧および椎弓形成術をおこなった1例」

亀井裕介

●日本脳神経外科学会 第75回学術総会 2016.9.30

・「4D-phase contrast MRIによる頭蓋内脳血管の血管断面積と血液量の関連 Flow-area relationship in intracranial arteries by 4D phase contrast MRI」

梅田靖之、佐野貴則、深澤恵児、安田竜太、石田藤麿、当麻直樹、亀井裕介、阪井田博司、鈴木秀謙

・「脳動脈瘤の変形はせん断応力(WSS)の低下をひきおこす」

深澤恵児、石田藤麿、辻正範、種村浩、田中克浩、梅田靖之、亀井裕介、霜坂辰一、鈴木秀謙

●第1回脳血管外科ビデオカンファレンス 2016.11.11

「左内頸動脈—後交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血の1例」

深澤恵児

●第32回NPO法人 日本脳神経血管内治療学会学術総会 2016.11.24

「未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術における術中塞栓トラブル ～Soutenir NVの有用性～」

梅田靖之、深澤恵児、当麻直樹、亀井裕介、阪井田博司、鈴木秀謙

●第2回MINT 2016.12.2

「VA thrombosed giant aneurysm」

梅田靖之

●第26回三重大学脳神経外科同門会学術集会 2016.12.10

「当院における脳血管内治療の適応と実際」

梅田靖之、深澤恵児、山本章貴、亀井裕介、田代晴彦

<講演>

●第63回三重県核医学談話会 2016.11.12

「頸動脈ステント留置術におけるプラーク診断と負荷脳血流SPECTの役割」

梅田靖之

●県立総合病院学術講演会 2016.12.6

「進歩する脳血管内治療 ～最新reviewと当院の治療方針～」

梅田靖之

<論文>

●多孔質媒体モデルを用いたCFD解析による脳動脈瘤コイル塞栓術後閉塞状態の予測

梅田靖之、石田藤麿、辻正範、古川和博、佐野貴則、当麻直樹、阪井田博司、霜坂辰一、鈴木秀謙

平成28年優秀JNET論文賞受賞 銅賞

小児科

<学会・研究会発表>

●第 266 回日本小児科学会東海地方会 2016. 2. 7

「乳児期早期に呼吸不全で人工呼吸管理を要し百日咳と診断した 3 症例」

丹羽香央里

●第 267 回日本小児科学会東海地方会 2016. 6. 12

「百日咳で呼吸器管理中に一過性心停止を来した 2 ヶ月女児例」

北村創矢

●第 268 回日本小児科学会東海地方会 2016. 11. 13

「溶連菌感染症の関与が疑われ、糸球体腎炎・リウマチ熱も否定しえない経過をとった 4 歳男児例」

山田菜美

●第 52 回中部日本小児科学会 2016. 8. 21

「難治性川崎病で呼吸器管理を必要とし、血漿交換後に冠動脈瘤を来した 2 ヶ月男児例」

安田泰明

●第 390 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 2. 10

「” MERS-CoV と感染対策” 何故、韓国でアウトブレイクが起こったか？」

足立基

●第 391 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 3. 9

「難治性川崎病で呼吸器管理を必要とし血漿交換後に巨大冠動脈瘤を来した 2 か月男児例」

安田泰明

●第 393 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 5. 11

「頸部リンパ節腫脹の 14 歳女児例」

牛田英里

●第 394 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 6. 8

「運動中に著明な腹痛を来した 12 歳女児」

米野翔太

●第 397 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 10. 12

「乳児期に噴水様嘔吐を認めた 1 例」

乙部裕

●第 399 回 北勢地区小児臨床懇話会 2016. 12. 14

「ウズラ卵アレルギーとおもわれた 1 例」

牛田英里

●第5回 小児救命医療講演会 2016. 3. 24

「百日咳で呼吸器管理中に一過性心停止を来した2ヵ月女児例」

北村創矢

●第32回 三重県小児内分泌代謝研究会 2016. 7. 21

「高度脂肪肝にもかかわらず低コレステロールを呈する知的障害のある高度肥満の女子例」

小川昌宏

●第168回 三重県小児科医会 2016. 9. 25

「タンデムマスにて発見された古典的フェニルケトン尿症の1例」

武岡真美

●第1回 三重県小児神経懇話会 2016. 11. 10

「てんかんミニレクチャー」

太田穂高

産婦人科

<学会・研究会発表>

●第136回東海産科婦人科学会 2016. 2 岐阜

・「子宮内膜症を合併したOHVIRA症候群 (Obstructed Hemivagina and Ipsilateral Renal Anomaly syndrome) の一例」

秋山登、田中浩彦、徳山智和、南結、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

・「当院における付属器腫瘍捻転症例の検討」

徳山智和、小林良成、秋山登、南結、小田日東美、中野譲子、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫、谷口晴記

・「Pazopanib投与中に消化管穿孔を発症した未分化子宮内膜肉腫の1例」

川村賢吾、小林良成、秋山登、徳山智和、南結、小田日東美、中野譲子、井澤美穂、田中浩彦、朝倉徹夫、谷口晴記

・「当科における腹腔鏡下手術の変遷」立ち上げから悪性疾患手術まで」ランチョンセミナー2」

田中浩彦

●第1回三重腹腔鏡セミナー in 鳥羽 2016. 3 鳥羽

「出張 TLH の一例」

田中浩彦

●第 68 回日本産科婦人科学会学術講演会 2016.4 東京

- ・「婦人科悪性腫瘍手術におけるコツとピットフォール ランチョンセミナー4」
田中浩彦、平嶋泰之
- ・「子宮頸部細胞診擦過部より大量出血し、腹腔鏡下腫瘍核出術にて診断・治療し得た悪性度不明な子宮頸部平滑筋腫瘍の一例」
南結、田中浩彦、徳山智和、秋山登、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記
- ・「子宮子宮内膜症との鑑別を要し、腹腔鏡下に摘出した直腸後腔に発生した Developmental cyst の 2 例」
小田日東美、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記
- ・「非典型的な超音波所見を呈した症候性胎盤血管腫の 1 例」
小林良成、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第 18 回三重県産婦人科疾患治療研究会 2016.5 津

- 「当科で行う腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状 -子宮筋腫の手技も含めて-」
田中浩彦

●第 25 回三重県産婦人科腫瘍研究会 2016.7 津

- 「婦人科悪性疾患リンパ節摘出時におけるクリップ型オーガンリトラクターの使用経験」
徳山智和、田中浩彦、秋山登、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、千田時弘、本橋卓

●北勢地区産婦人科研修会（第 4 回四日市産婦人科ラパロ研究会） 2016.7 四日市

- 「ジエノグストの臨床評価 「長期使用例を中心に」」
井澤美穂

●第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2016.9 長崎

- ・「腹腔鏡下腫瘍核出術にて診断・治療し得た悪性度不明な子宮頸部平滑筋腫瘍の一例」
小田日東美、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記
- ・「婦人科悪性疾患リンパ節摘出時におけるクリップ型オーガンリトラクターの使用経験」
徳山智和、田中浩彦、秋山登、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、千田時弘
- ・「子宮良性疾患に対して腹腔鏡下单純子宮全摘術を行い、術後病理で CIN3・微小浸潤癌が病理が判明した症例の、腹式單純子宮全摘術との比較検討」
井澤美穂、田中浩彦、小林良成、秋山登、徳山智和、小田日東美、中野譲子、朝倉徹夫、谷口晴記、本橋卓
- ・「当科における早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状」
小林良成、田中浩彦、秋山登、徳山智和、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、

小林良幸、本橋卓、近藤英司

- 第17回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2016.10 名古屋
 - ・「腹腔鏡下広汎子宮全摘術におけるCUSAの使用経験」
秋山登、田中浩彦、徳山智和、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、
谷口晴記
 - ・「子宮全摘後に腔断端離開した7症例の検討」
井澤美穂、田中浩彦、秋山登、徳山智和、小田日東美、中野譲子、小林良成、朝倉徹夫、
谷口晴記、本橋卓

- 第9回三重県産婦人科内分泌研究会 2016.10 津
 - 「低用量ピルと子宮頸癌」
田中浩彦

- 第17回北陸内視鏡および子宮頸癌手術研究会 2016.10 金沢
 - 「Laparoscopic radical parametrectomyを施行した一例」
田中浩彦

- 第31回三重母性衛生学会 2016.11 津
 - 「子宮内黄体ホルモン放出システム(IUS)の挿入」
井澤美穂、秋山登、徳山智和、小田日東美、中野譲子、小林良成、田中浩彦、朝倉徹夫、
谷口晴記

- 第9回日本性感染症学会総会 シンポ 2016.12 岡山
 - 「HIVの母子感染予防対策」
谷口晴記、塚原優己、田中瑞恵、杉浦敦、吉野直人、蓮尾泰之、喜多恒和

- <論文>
- 特集/産婦人科処方マニュアル/HIV感染症
 - 谷口晴記、千田時弘、塚原優己、喜多恒和
産科と婦人科、2016: vol.83 Suppl.:396-397

- 特集/HIV感染症の流行はまだ続いている/母子感染予防の現状と課題
 - 谷口晴記、山田理佳、千田時弘、塚原優己
化学療法の領域;2016;5:97-106

- 「妊娠と感染症 - 母児のリスクとベネフィットを考慮した薬物療法の実践 -」巻頭言
 - 谷口晴記、監修企画
薬局;2016;5:6-7

- クリップ型オーガンリトラクターを用いて傍大動脈リンパ節生検を実施した1例

徳山智和、朝倉徹夫、秋山登、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、谷口晴記、千田時弘、本橋卓

東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌 2016 ; 4 : 106-111

●腹腔鏡下広汎子宮全摘術中に発生した外腸骨動脈損傷に対し腹腔鏡下に修復し得た一例

高倉翔、朝倉徹夫、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、田中浩彦、谷口晴記、本橋卓、近藤英司、池田智明

日産婦内視鏡学会誌 2016 ; 32 (in press)

●当院における保険収載後の腹腔鏡下子宮体癌手術

秋山登、田中浩彦、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、本橋卓、小田日東美、千田時弘

日産婦内視鏡学会誌 2016 ; 32 (in press)

●卵巣子宮内膜症性嚢胞から発生した卵巣癌に対し、二期的に腹腔鏡下 staging 手術を実施した1例

田中浩彦、朝倉徹夫、秋山登、徳山智和、南結、小田日東美、中野譲子、小林良成、井澤美穂、谷口晴記、本橋卓、長尾賢治、千田時弘

日産婦内視鏡学会誌 2016 ; 32 (in press)

●当科における妊娠期間中の腹腔鏡下卵巣腫瘍手術の留意点

小林良成、田中浩彦、高倉翔、徳山智和、秋山登、大内由紀、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

日産婦内視鏡学会誌 2016 ; 32 (in press)

整形外科

<学会・研究会発表>

●第126回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2016.4.8~9 浜松市

「膝蓋骨脱臼に大腿骨荷重部軟骨損を合併した3例」

森本剛司、北尾淳、奥山典孝、岡村直樹

●第8回 JOSKAS 2016.7.28~30 福岡市

・「外側半月切除後、大腿骨外顆脛骨外顆軟骨損傷を来し、脛骨逆行性自家骨軟骨柱移植術及び大腿骨自家培養軟骨移植術を施行した1例」

森本剛司、北尾淳、岡村直樹

・「大腿骨滑車部への自家培養軟骨ジャックの移植手技の工夫」

岡村直樹、北尾淳、森本剛司

●第127回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2016.9.30~10.1 松本市

「直達外力による大腿骨内顆軟骨損傷の3例」

柿本拓也、北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

●第22回東海関節鏡研究会 2016.1.16 名古屋市

「脛骨膝関節面への自家骨軟骨柱移植の試み」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

●第9回東海人工関節研究会 2016.1.30 名古屋市

「Oxford Partial Knee の新型大腿骨ジグ(Microplasty Instruments)と従来型ジグとのインプラント設置角精度の比較」

岡村直樹、北尾淳、森本剛司、奥山典孝

●第2回北勢軟骨治療講演会 2016.3.10 四日市市

「当院における膝関節自家培養軟骨移植の現状」

岡村直樹

●JACC ユーザーミーティング 2016 2016.7.29 福岡市

「JACC と逆行性モザイク移植による Kissing lesion に対するチャレンジ」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹、柿本拓也

●第26回三重関節鏡・関節外科研究会 2016.12.1 津市

「膝半月板嚢腫の治療経験」

柿本拓也、北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

<論文>

●膝関節軟骨損傷に対する自家培養軟骨ジャック移植後の術後6ヵ月、1年での鏡視所見

JOSKAS 41 巻1号 Page240-241 2016.03 発行

北尾淳、森本剛司、岡村直樹

●反復性膝蓋骨脱臼および外反膝を伴った大腿骨外顆軟骨損傷に対し大腿骨遠位骨切り術を施行した1例

JOSKAS 41 巻1号 Page262-263 2016.03 発行

森本剛司、北尾淳、岡村直樹

●同時に自家軟骨培養手術、高位脛骨骨切り術、自家骨軟骨柱移植術を施行した1例

JOSKAS 41 巻1号 Page244-245 2016.03 発行

岡村直樹、北尾淳、森本剛司

●前十字靭帯損傷に伴う大腿骨外顆陥凹型軟骨下骨折の1例

中部日本整形外科学会雑誌 59 巻3号 Page575-576 2016.05 発行

奥山典孝、北尾淳、森本剛司、岡村直樹

皮膚科

<学会・研究会発表>

- 第17回三重大学皮膚科同門会学会 2016.2.7 ホテルグリーンパーク津
「胃癌が発見された紅皮症の1例」
加古智子

泌尿器科

<学会・研究会発表>

- 第66回日本泌尿器科学会中部総会 2016.10.27
「Docetaxelの関与を強く疑う虚血性腸炎・敗血症をきたした前立腺癌の1例」
荒瀬栄樹、松浦浩、堀靖英、栃木宏水
- 第66回日本泌尿器科学会中部総会 2016.10.28
「悪性腫瘍による壁外性尿管閉塞に尿管ステントとしてバードインレイステントを用いた患者の臨床的検討」
松浦浩、荒瀬栄樹、堀靖英、栃木宏水
- 第59回三重泌尿器科医会 2016.1.24
「三重県立総合医療センター泌尿器科における2015年手術統計」
荒瀬栄樹、松浦浩、堀靖英、栃木宏水

麻酔科

<学会・研究会発表>

- 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第14回学術集会 2016.9.10
「予定帝王切開術後にオキシトシン少量持続投与による低ナトリウム血症を発症した一症例」
庄村千恵子、川端広憲、坂本正、笹邊萌絵、古橋一壽

耳鼻咽喉科

<学会・研究会発表>

- 第81回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会 2016.5.15
「温泉入浴の温熱作用が高齢者の咽喉頭炎に及ぼす影響」
鈴村恵理（三重県立総合医療センター）、出口晃、川村陽一（小山田記念温泉病院）、川村直人（主体会病院）、川村憲市（鈴鹿さくら病院）

看護部

<学会・研究会発表>

- 第26回日本アルコール看護研修会 三重大会 2016.2.12

- ・「当院の現状と病棟看護師の役割 ～アルコール関連疾患患者の退院支援を考える～」
加藤知里、櫻井祥子、森上ゆう子、市川美穂
 - ・「救急外来におけるアルコール患者への対応」
森本香織、池田まり
- 第18回日本マネジメント学会学術総会 2016.4.22
- ・「師長のランチョンミーティングにおける現状について」
坂倉小夜子、江川伸子、川島いづみ
 - ・「新人看護職員看護技術支援室「ひよっこクラブ」における技術支援の評価」
江川伸子、川島いづみ、坂倉小夜子
- 第65回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 2016.6.4
- 「単品系深型凸面型装具が有効であったストーマの特徴について」
林恵里、大川恵美
- 第21回日本緩和医療学会学術大会 2016.6.17
- ・「当院における苦痛スクリーニングSTAS-J導入の報告」
川瀬佐登美、米津佑佳、酒井美紀子、森上ゆう子、矢田友美、渡部秀樹、小西邦彦、坂倉究、児玉秀治、安藤真弓、高橋実音子
 - ・「苦痛スクリーニングSTAS-J導入1ヶ月後の評価と今後の課題」
米津佑佳、川瀬佐登美、酒井美紀子、渡部秀樹、児玉秀治、小林良成、安藤真弓、高橋実音子、坂倉究、小西邦彦
- 第28回呼吸器疾患トータルケア研究会 2016.7.29
- 「肺がん患者に対する看護師の意識変化～STAS-J導入を試みて～」
瀧川佑佳、野瀬聖子、鈴木美江、吉川昌江、大久保順子、安藤瑞英、伊藤江美香、佐野智香
- 第24回三重県太地・新生児研究会 2016.7.31
- ・「当院での母乳認証システム導入の取り組み」
長谷川実佳、松野薫、谷口里見
 - ・「当院の早産時における入院時体温管理について」
松野薫、谷口里見
- 第11回三重県消化器内視鏡技師研究会 2016.9.4
- 「当院内視鏡センタでの工夫～感染対策を含めて考えたこと～」
山下あゆみ
- 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 2016.9.23
- 「多発性筋炎により球麻痺症状を呈した患者に対し嚥下訓練を行った一例について」
服部節子、三村寛子、寺西紘子、木下真実、鈴木由希子、古田智之

●第10回日本医療マネジメント学会 三重支部学術集会 2016.10.15

- ・「リンクナースラウンドの現状とフィードバック方法の検討」

垣内由美

- ・「睡眠薬が影響する転倒を防止する取り組み」

稲垣夏江

●日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会 2016.11.17~18

- ・「10代女性を対象とする効果的な妊娠前教育への取り組み ～思春期の性教育に対する親の関わり方～」

服部あみ、齋藤由里佳、石黒加奈子、澤遥、平田亜美、佐藤里絵

- ・「混合病棟における母子療養環境の検討」

佐藤里絵

●がんのリンパ浮腫研究会 2016.11.23

- 「当院におけるリンパ浮腫ケア外来開設の報告」

山下知子、小林茜、田崎和美、櫻井美絵、坂本正代、伊藤江津枝、川瀬佐登美、朝倉徹夫

●第59回日本感染症学会中日本地方学術集会 2016.11.25

- 「分離株に対する毒素検査を行う2ステップアルゴリズムを取り入れた当院におけるClostridium difficile感染症対策の現状」

岡本真一、油田尚総、海住博之、高羽桂、森尚義、寺島俊和、前田光

●三重緩和医療研究会 2016.11.27

- 「STAS-」を有効活用しカンファレンスの充実を目指す ～緩和ケアチームとの連携を通じて～」

森上ゆう子、酒井美紀子、小林佑佳、川瀬佐登美、北岡春美、渡部秀樹

●日本看護科学学会 2016.12.10

- 「看護師の臨床判断の研究における文献レビュー 看護師を対象とした国内文献に焦点を当てて」

山中裕樹、前田貴彦（三重県立看護大学）

<執筆>

●「身体拘束を体験した脳神経疾患患者の認識—倫理的視点からの考察—」

増田由美、寺林恵美、宮崎徳子

日本ニューロサイエンス看護学会誌 第3巻 第2号 平成28年6月30日 June.2016

●「ココが知りたかった！ 急変対応」

上山一樹

エキスパートナース 2016年8月臨時増刊号（照林社）

中央放射線部

<学会・研究会発表>

- 日本昇格画像診断情報研究会 2016. 2. 20
「術前の画像診断で指摘し得た遺残虫垂炎の1例」
安本浩二

- 日本超音波検査学会学術集会 2016. 6. 11
「外頸動脈との連続性をSMI法で描出できた浅側頭動脈瘤の1症例」
安本浩二

- 日本診療放射線技師学術集会 2016. 9. 18
「超音波装置の違いによる脂肪肝の評価について」
安本浩二

- 日本放射線技術学会秋季大会 2016. 10. 13
「撮影FOVサイズが画像の回転中心部のCT値に及ぼす影響についての基礎的検討」
恒川和弘

- 中部放射線医療技術学術大会 2016. 11. 5
「撮影条件が回転中心部のCT値に及ぼす影響についての基礎的検討」
恒川和弘

<講演>

- MMC内科総合セミナー 2016. 5. 23
「実践！明日から役立つ腹部エコー」
安本浩二

- 中部超音波フォーラム 2016. 5. 8
「胆道系の超音波」
安本浩二

- 三重県超音波研究会 2016. 7. 3
「教育講演 診せませす 40症例 胆膵領域・消化管領域」
安本浩二

- 中部超音波フォーラム 2016. 7. 12
「胆道系の超音波」
安本浩二

- 中部超音波フォーラム 2016. 10. 23
「胆道系の超音波」

安本浩二

●津柵原地区画像研究会 2016. 11. 18

「徹底的に胆嚢超音波」

安本浩二

●北勢消化器画像研究会 2016. 12. 10

「肝臓イメージング～造影と医療安全～ 超音波」

安本浩二

中央検査部

<学会・研究会発表>

●第 27 回日本臨床微生物学会 2016. 1. 29～31 仙台国際センター

「当院における尿培養検出菌について」

高羽桂、海住博之、東薫、秦由佳

●平成 27 年度三重県臨床検査技師会 第 7 回神経生理勉強会 2016. 2. 6 松阪市

「絞扼性末梢神経障害」

坂下文康

●第 23 回三重細菌真菌研究会 2016. 2. 28 グリーンパーク津

・「当院における尿培養検出菌について」

高羽桂、海住博之、東薫、秦由佳、高橋あけみ

・「当院における抗酸菌検査状況」

秦由佳、高羽桂、東薫、高橋あけみ、海住博之

●第 64 回日本化学療法学会 2016. 6. 9～11 神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル

・「Candida (Trichomonascus) ciferrii による難治性の慢性中耳炎の 2 症例」

高羽桂、時松一成、亀山克彦、荒川創一

・「尿路感染症による敗血症性ショック症例の危険因子に関する臨床的検討

：多施設共同研究」

山道深、安福富彦、重村克己、高羽桂、時松一成、中野雄造、田中一志、荒川創一、
藤澤正人

・「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況」

朝比奈桃花、大澤佳代、重村克己、吉田弘之、高羽桂、時松一成、藤澤正人、荒川創一

●平成 28 年度三重県臨床検査技師会 第 2 回神経生理勉強会 2016. 8. 25 松阪市

「症例報告」

坂下文康

- 平成 28 年度三重県臨床検査技師会 第 3 回神経生理勉強会 2016. 9. 15 津市
「上肢の絞扼性末梢神経障害」
伊藤美紀

- 平成 28 年度長野県臨床検査技師会 微生物検査研究班研修会 2016. 10. 15～16
「『知っておきたい耐性菌の基礎知識』
～βラクタマーゼ産生菌を三重県標準化マニュアルから考える～」
海住博之

- 第 86 回日本感染症学会 西日本地方会学術集会 2016. 11. 24～26
「当院でのレジオネラ肺炎診断法の後方視的検討と問題点について」
海住博之、油田尚総、高羽桂、岡本真一、森尚義、寺島俊和、前田光

- 第 39 回三重医学検査学会 2016. 11. 27 伊勢市ハートプラザみその
「血液培養より *Campylobacter upsaliensis* が分離された 1 症例」
秦由佳、海住博之、高羽桂、東薫、高橋あけみ、中村明子

- 平成 28 年度日本臨床衛生検査技師会 中部圏支部医学検査学 2016. 12. 10～11 金沢市
部門別研究班報告 V 「糖尿病神経障害を合併した頸椎症患者の神経伝導検査」
坂下文康

<ハンズオンセミナー>

- 平成 27 年度日本臨床衛生検査技師会 第 2 回神経生理研修会 2016. 2. 13 日臨技会館
東京都
「上肢の神経伝導検査」
坂下文康

<論文・執筆>

- 当院における抗酸菌検査状況
秦由佳、高羽桂、東薫、高橋あけみ、海住博之
三重県臨床検査技師学会誌 2016 Vol. 39

薬剤部

<学会・研究会発表>

- 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会 2016. 2. 20 京都
「小児尿培養から検出された ESBL 産生 *E. coli* に関する検討」
森尚義、高羽桂、垣内由美、岡本真一、時松一成
- 第 58 回日本老年医学会学術集会 2016. 6. 9 金沢
「高齢 HIV 感染症患者の実情と多剤併用」

森尚義、大井一弥

●第26回日本医療薬学会年会 2016.9.18 京都

「アントラサイクリン系薬剤を含む化学療法を受ける乳癌患者に対するアプレピタントとパロノセトロンの有効性」

横山聡、田丸智巳、水野聡朗、岩本卓也、玉木慎也、渡邊健一、中西大介、下野誠、森章哉、川上恵基、山川智一、小西尚巳、青孝明、影山慎一、阪田安彦、大谷彰一郎、山田知美、坂晋、大井一弥

●第10回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2016.11.20 横浜

「Dolutegravirの投与開始前後の推算糸球体濾過量の推移」

中道翔子、森尚義、林雅彦、八重徹司、藤川隆彦、大井一弥、谷口晴記

●第30回日本エイズ学会学術集会・総会 2016.11.25 鹿児島

・高齢HIV感染症患者の実情と多剤併用」

森尚義、大井一弥、谷口晴記

・「Dolutegravirの投与により推算糸球体濾過量が想定外の減少を示した症例」

森尚義、中道翔子、谷口晴記

<論文>

●Tenofovir disoproxil fumarateによる体表面積未補正eGFR低下の危険因子に関する検討

森尚義、林雅彦、大井一弥、八重徹司、谷口晴記

日本腎臓病薬物療法学会誌、第5巻、第3号、17-23、2016.

栄養管理室

<学会・研究会発表>

●北勢・地域連携栄養カンファレンス 2016.3.5

「下痢から敗血症に陥った一例」

関口恵子

●三重県臨床栄養研究会 2016.4.9

「褥瘡パス入院の取り組みについて」

秦いづみ

●日本糖尿病情報学会 2016.9.3

「褥瘡パス入院患者の栄養情報共有について」

秦いづみ

4. 統計データ

(1) 患者統計

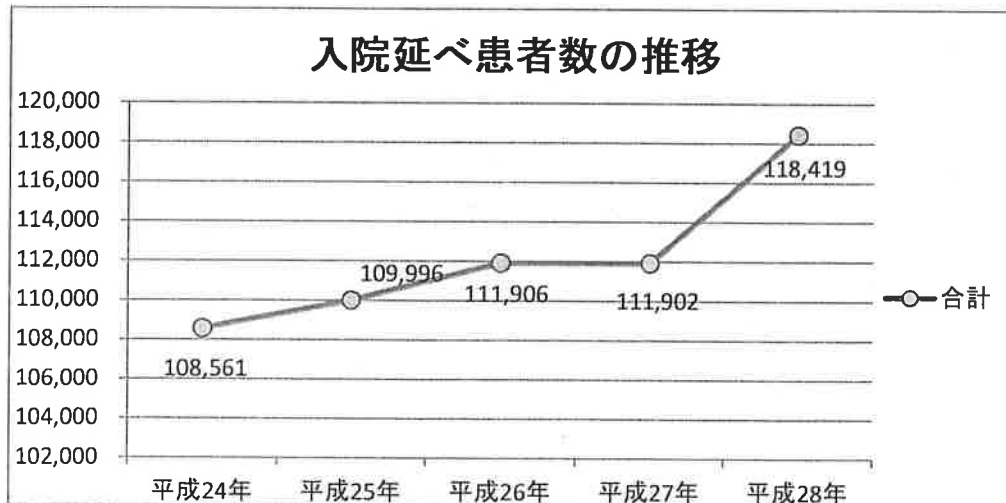
《診療科別外来延べ患者数》

科	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
内科	6,811	6,083	6,036	6,012	5,798
外科	12,322	13,665	13,471	13,353	13,793
心臓血管外科	1,492	1,336	1,178	1,144	1,049
脳神経外科	5,628	5,344	5,129	5,134	5,076
小児科	16,733	16,478	16,027	16,949	16,771
産婦人科	16,128	17,108	17,187	17,658	18,182
整形外科	10,845	10,783	10,471	10,599	11,312
リハ科	0	0	0	0	0
皮膚科	2,755	5,243	5,556	6,554	6,297
泌尿器科	6,274	6,325	6,693	7,555	7,719
眼科	0	1,062	1,698	1,905	2,263
耳鼻咽喉科	1,322	1,726	1,970	4,327	4,133
精神科	4,619	4,150	3,897	3,584	3,476
放射線科	726	0	0	0	0
神経内科	4,208	3,912	3,484	3,654	3,562
循環器内科	10,925	10,656	10,120	9,565	9,714
呼吸器内科	10,396	9,848	10,118	10,889	11,312
消化器内科	11,783	12,100	10,961	11,631	12,254
呼吸器外科	311	457	442	342	352
放射線診断科	737	1,134	1,199	1,562	1,657
放射線治療科	1,735	2,072	1,873	1,480	1,524
合計	125,750	129,482	127,510	133,897	136,244



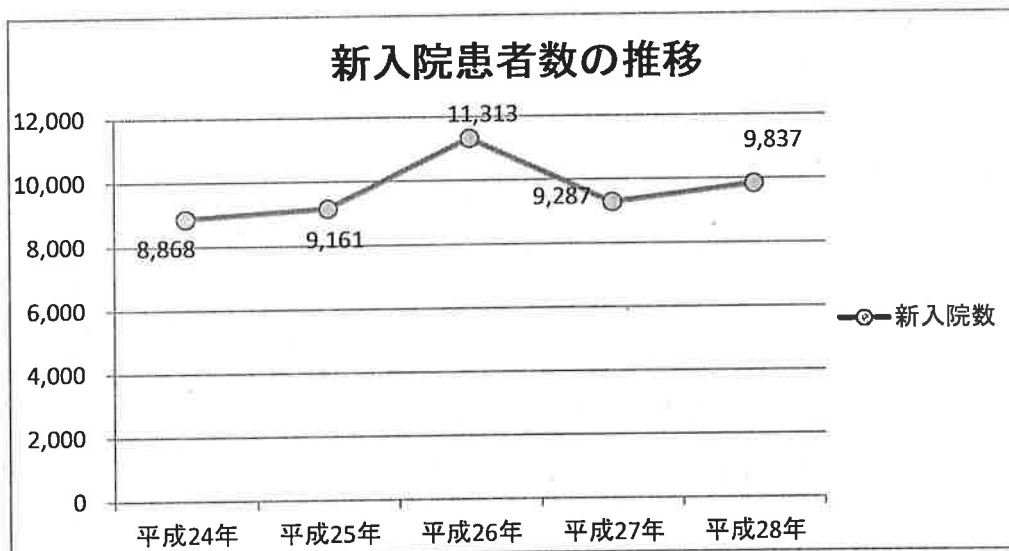
《診療科別入院延べ患者数》

科	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
内科	15	0	0	0	0
外科	14,236	15,887	15,652	16,458	16,242
心臓血管外科	3,252	3,207	2,298	2,479	2,040
脳神経外科	10,452	10,801	11,172	10,446	11,105
小児科	12,637	11,210	12,567	12,585	11,890
産婦人科	11,745	11,937	13,210	13,218	13,254
整形外科	12,064	12,154	12,493	11,998	12,190
皮膚科	210	422	363	524	553
泌尿器科	2,774	2,218	2,351	2,485	2,942
眼科	0	6	3	7	8
耳鼻咽喉科	0	0	92	390	366
精神科	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0
神経内科	5,084	5,051	6,048	6,558	7,614
循環器内科	7,459	7,623	7,473	8,515	11,655
呼吸器内科	16,928	18,007	18,280	16,393	16,044
消化器内科	9,886	9,874	8,480	8,408	11,234
呼吸器外科	1,819	1,599	1,424	1,438	1,282
放射線診断科	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0
合計	108,561	109,996	111,906	111,902	118,419



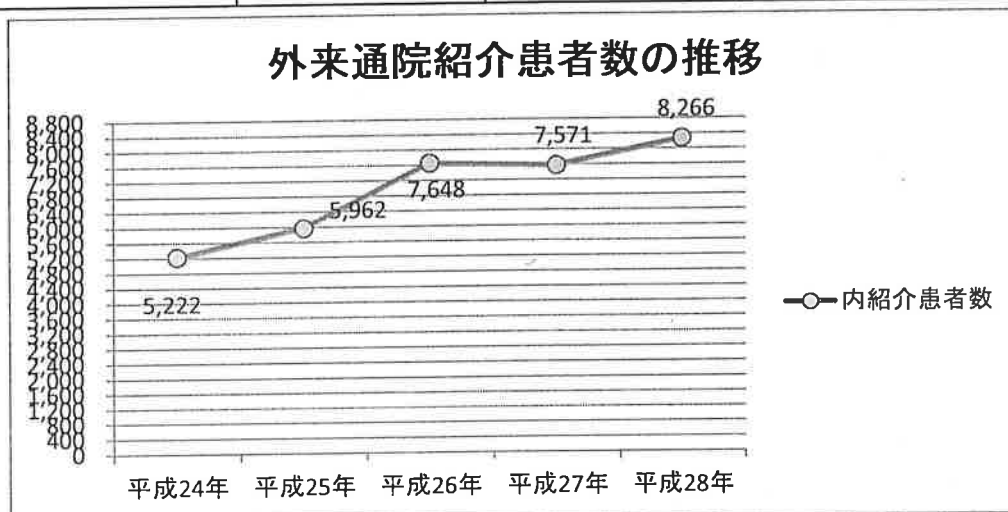
《入退院状況》

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
新入院数	8,868	9,161	11,313	9,287	9,837
内紹介入院数	1,394	1,254	2,013	1,368	1,569
内救急入院数	3,351	3,557	4,235	3,538	3,770
転科入院数	257	260	316	282	326
退院数	8,915	9,134	11,259	9,282	9,842
内死亡退院数	455	465	551	448	412
転科退院数	257	260	316	282	326
平均在院日数	12.2	12.0	12.5	12.1	12.0



《外来通院状況》

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
初診数	20,232	20,335	24,137	20,815	20,690
内紹介患者数	5,222	5,962	7,648	7,571	8,266
内救急患者数	11,591	10,919	12,276	9,779	9,676
平均通院日数	6.2	6.4	6.7	6.4	6.6



(2) 病歴管理室統計

疾病別・診療科別・性別・退院患者数 (ICD10小分類)

(H28.1.1~H28.12.31)

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科
		総計	19981	2260	202	787	3541	2243	1707	89	543	2	81	988	2680	2325	2206	274	73
c-0101	原因の明示された膈管感染症	男	122	0	0	0	97	0	0	0	1	0	0	4	6	7	7	0	0
		女	90	3	0	0	75	0	0	0	0	0	0	2	1	8	3	0	0
c-0102	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	男	110	6	0	0	66	0	0	0	5	0	0	3	5	9	16	0	0
		女	84	7	0	0	45	0	0	0	0	0	0	1	8	10	17	0	0
c-0103	呼吸器結核	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	3	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0
c-0104	その他の結核	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0105	百日咳	男	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0106	敗血症	男	49	4	0	0	2	0	0	0	4	0	0	4	8	14	13	0	0
		女	54	1	0	0	4	2	0	1	4	0	0	2	11	18	11	0	0
c-0107	その他の細菌性疾患	男	74	3	0	1	34	0	1	0	0	0	0	3	2	18	12	0	0
		女	65	0	0	0	29	2	0	0	1	0	0	4	3	18	7	1	0
c-0109	淋菌感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0111	ヘルペスウイルス感染症	男	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-0112	水痘	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0113	帯状疱疹	男	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0
c-0116	皮膚及び粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	男	17	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	13	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0117	B型ウイルス肝炎	男	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
		女	10	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0
c-0118	C型ウイルス肝炎	男	25	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2	16	0	0
		女	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	17	0	0
c-0119	その他のウイルス肝炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-0120	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0121	ムンプス	男	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	4	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0122	その他のウイルス疾患	男	41	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
		女	36	0	0	0	30	1	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0
c-0124	カンジダ症	男	6	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	2	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	2	1	0	0
c-0125	その他の真菌症	男	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	1	0
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0
c-0126	結核の続発・後遺症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
c-0127	その他の感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0128	その他の感染症及び寄生虫症	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
c-0201	口唇、口腔及び咽喉頭の悪性新生物	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0202	食道の悪性新生物	男	58	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	7	0	0
		女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0203	胃の悪性新生物	男	132	73	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	5	5	45	1	0
		女	55	29	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	18	1	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科
c-0204	結腸の悪性新生物	男	108	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	2	22	1	0
		女	103	73	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	24	0	0
c-0205	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	男	47	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	7	2	0
		女	38	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-0207	肝及び肝内胆管の悪性新生物	男	47	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	38	0	0
		女	33	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0
c-0208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	男	53	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	32	2	0
		女	14	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0
c-0209	膵の悪性新生物	男	31	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	22	0	0
		女	22	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0
c-0210	その他の消化器の悪性新生物	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
c-0212	気管、気管支及び肺の悪性新生物	男	286	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7	208	6	39	0
		女	94	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	60	1	26	0
c-0214	骨及び関節軟骨の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0217	中皮及び軟部組織の悪性新生物	男	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	11	3	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0218	乳房の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		女	59	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
c-0219	子宮頸(部)の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0
		女	79	1	0	0	0	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0220	子宮体(部)の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	1	0
		女	141	1	0	1	0	130	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0222	卵巣の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	0
		女	144	1	0	0	0	136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0223	その他の女性生殖器の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0224	前立腺の悪性新生物	男	100	6	0	1	0	0	0	0	81	0	0	1	2	2	7	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0225	その他の男性生殖器の悪性新生物	男	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0226	腎及び腎盂の悪性新生物	男	13	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	1	1	2	0	0
		女	4	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0
c-0227	膀胱の悪性新生物	男	126	2	0	2	0	0	0	0	118	0	0	0	1	0	1	1	0
		女	25	1	0	1	0	1	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0228	その他の尿路の悪性新生物	男	7	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0230	中枢神経系の悪性新生物	男	16	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女	6	0	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0231	甲状腺の悪性新生物	男	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-0233	非ホジキンリンパ腫	男	5	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0
		女	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0
c-0234	白血病	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0235	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-0236	その他の悪性新生物	男	303	111	0	4	0	0	0	0	55	0	0	1	7	84	35	6	0
		女	265	82	0	5	0	79	2	0	9	0	0	0	5	27	17	14	25
c-0237	子宮頸(部)の上皮内癌	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0238	その他の上皮内新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0241	子宮平滑筋腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	230	0	0	0	0	230	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0242	卵巣の良性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	84	1	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科
c-0244	中枢神経系のその他の新生物	男	6	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		女	7	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
c-0245	その他の新生物	男	75	11	0	2	1	0	3	0	3	0	0	4	4	4	33	10	0
		女	107	4	1	0	4	67	3	0	0	0	0	3	3	0	18	3	1
c-0301	鉄欠乏性貧血	男	44	2	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	3	0	22	1	0
		女	47	2	0	0	6	18	0	1	0	0	1	1	2	1	13	1	0
c-0302	その他の貧血	男	41	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	2	10	6	16	0	0
		女	46	5	0	0	1	10	4	0	0	0	0	1	10	3	12	0	0
c-0303	出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	男	58	7	0	0	24	0	0	0	2	0	0	0	8	12	5	0	0
		女	61	8	0	0	13	22	1	0	0	0	0	1	5	7	3	0	1
c-0304	免疫機構の障害	男	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0
c-0401	甲状腺中毒症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女	7	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0
c-0402	甲状腺炎	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
c-0403	その他の甲状腺障害	男	15	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
		女	14	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	5	1	2	0	0
c-0404	インスリン依存性糖尿病	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
c-0405	インスリン非依存性糖尿病	男	216	11	6	2	1	0	5	0	2	0	0	33	89	24	41	2	0
		女	134	6	3	0	0	17	1	1	0	0	0	17	44	18	29	0	0
c-0406	その他の糖尿病	男	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	1	0	0
		女	8	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0
c-0407	膵臓機能障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0408	栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	男	20	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	3	3	1	4	0	0
		女	10	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0
c-0409	肥満(症)	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-0410	高脂血症	男	154	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	24	114	3	12	0	0
		女	84	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	16	57	1	5	0	0
c-0411	体液量減少(症)	男	56	5	0	1	23	0	0	0	1	0	0	5	7	8	6	0	0
		女	54	2	0	0	21	3	0	0	0	0	0	4	6	7	11	0	0
c-0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男	142	11	0	3	53	0	2	0	0	0	0	6	21	17	25	2	0
		女	122	2	0	1	43	9	1	3	1	0	0	8	25	12	16	1	0
c-0501	血管性及び詳細不明の認知症	男	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	2	0	0
		女	9	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	5	0	0
c-0502	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	男	18	5	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-0503	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-0504	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	男	8	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
		女	10	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0
c-0505	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	男	10	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0
		女	17	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1	4	5	0	0	0
c-0506	神経性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	男	11	1	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	2	0	3	0	0
		女	17	3	0	0	5	5	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
c-0507	知的障害<精神遅滞>	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0508	その他の精神及び行動の障害	男	20	8	0	0	7	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0
		女	11	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0
c-0601	髄膜炎	男	18	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	3	1	3	1	0	0
		女	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
c-0602	中枢神経系の炎症性疾患	男	7	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0
		女	8	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
c-0603	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科
c-0804	パーキンソン病	男	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	2	0	0	0
		女	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	3	0
c-0805	アルツハイマー病	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
		女	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	2	2	0	0
c-0806	多発性硬化症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-0607	てんかん	男	68	0	0	9	28	0	0	0	0	0	0	20	6	5	0	0	0
		女	57	0	0	2	19	3	0	0	0	0	0	22	3	4	4	0	0
c-0808	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
c-0809	一過性脳虚血発作及び関連症候群	男	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	3	1	0	0	0
		女	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	1	1	0	0
c-0810	睡眠障害	男	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	3	0	0
		女	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0
c-0611	神経、神経根及び神経そのの障害	男	28	2	0	5	2	0	6	0	0	0	0	9	1	1	2	0	0
		女	20	1	0	2	1	1	3	0	0	0	4	5	0	3	0	0	0
c-0612	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	男	17	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	6	0	3	2	1	0
		女	10	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0
c-0613	自律神経系の障害	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0614	その他の神経系の疾患	男	35	1	0	11	4	0	0	0	0	0	0	12	2	2	3	0	0
		女	36	3	0	12	8	0	0	0	0	0	0	7	3	4	1	0	0
c-0701	麦粒腫及びさん粒腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0703	結膜炎	男	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0705	白内障	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0707	網膜血管閉塞症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0708	緑内障	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0709	斜視	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
c-0710	屈折及び調節の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0712	その他の眼及び付属器の疾患	男	41	1	0	1	24	0	0	0	1	0	5	7	0	2	0	0	
		女	28	0	0	0	21	1	0	0	1	0	2	2	1	0	0	0	
c-0801	外耳炎	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0802	耳垢栓塞	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0804	中耳炎	男	27	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
		女	22	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0808	その他の中耳及び乳様突起の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
c-0811	その他の内耳疾患	男	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	2	3	1	0	
		女	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	3	4	1	0	
c-0812	難聴	男	7	0	0	1	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	
		女	12	0	0	0	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	
c-0901	本態性(原発性)高血圧(症)	男	228	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	53	137	12	19	0	
		女	163	7	0	1	11	0	2	0	0	0	0	30	87	7	18	0	
c-0902	高血圧性心疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
c-0905	二次性高血圧症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
c-0906	狭心症	男	227	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	2	201	2	8	0	
		女	80	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	0	0	0	

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科
c-0907	急性心筋梗塞	男	64	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0	1	52	2	1	0	0
		女	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	1	0	0
c-0908	冠動脈硬化症	男	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0
c-0909	陈旧性心筋梗塞	男	75	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	4	0	0
		女	17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0
c-0910	その他の虚血性心疾患	男	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	4	3	0	0
		女	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0
c-0911	慢性リウマチ性心疾患	男	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	8	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0
c-0912	慢性非リウマチ性心内臓疾患	男	30	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0
		女	49	1	7	0	0	1	0	0	0	0	0	1	36	0	2	1	0
c-0913	心筋症	男	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0
c-0914	不整脈及び伝導障害	男	262	11	5	8	3	0	1	0	0	0	0	34	146	29	25	0	0
		女	194	10	6	8	3	1	2	1	0	0	0	21	108	16	20	0	0
c-0915	心不全	男	213	5	0	0	4	0	0	0	0	0	0	8	151	37	10	0	0
		女	202	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	5	142	37	13	0	0
c-0916	その他の心疾患	男	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	6	0	1	0	0
		女	24	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	19	1	1	0	0
c-0917	くも膜下出血	男	13	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
		女	19	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
c-0918	脳内出血	男	54	1	0	40	0	0	0	0	0	0	0	5	2	3	3	0	0
		女	49	1	0	37	0	0	1	0	0	0	0	1	2	4	3	0	0
c-0919	脳梗塞	男	198	2	1	14	0	0	0	0	0	0	0	138	20	13	10	0	0
		女	125	1	4	9	2	3	1	2	0	0	0	68	15	9	11	0	0
c-0920	脳動脈硬化(症)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0921	その他の脳血管疾患	男	86	0	0	58	4	0	0	0	0	0	0	22	2	2	0	0	0
		女	59	0	1	37	0	0	0	0	0	0	0	6	13	5	0	3	0
c-0922	肺塞栓症	男	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0
		女	12	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0
c-0923	動脈硬化(症)	男	41	1	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	25	3	2	0	0
		女	14	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2	3	0	0
c-0924	大動脈瘤及び解離	男	53	2	21	0	0	0	0	0	0	0	1	1	22	1	5	0	0
		女	30	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10	2	3	0	0
c-0926	動脈の塞栓症及び血栓症	男	7	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
		女	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
c-0927	その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	男	18	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	0
		女	9	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
c-0928	静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	男	24	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	10	1	8	0	0
		女	32	3	0	0	0	4	3	1	0	0	0	6	9	1	5	0	0
c-0929	下肢の静脈瘤	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0930	痔核	男	5	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0931	食道静脈瘤	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0
		女	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1
c-0932	低血圧(症)	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-0933	その他の循環器系の疾患	男	8	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
		女	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞	男	17	1	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
		女	9	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-1002	急性副鼻腔炎	男	16	0	0	0	17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	0	0	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
c-1003	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	男	80	1	0	0	71	0	0	0	1	0	5	0	1	0	1	0	0
		女	72	0	0	0	64	0	0	0	0	0	4	1	1	1	1	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳癌外科		
c-1004	急性咽喉炎及び気管炎	男	14	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1005	その他の急性上気道感染症	男	53	2	0	0	36	0	0	1	0	0	6	3	0	4	1	0	0	0	
		女	33	0	0	0	26	0	0	0	0	0	4	0	0	2	1	0	0	0	0
c-1006	インフルエンザ	男	51	1	0	2	36	0	1	0	0	0	0	2	3	8	0	0	0	0	
		女	40	0	2	0	19	1	2	0	0	0	0	1	1	13	1	0	0	0	0
c-1007	肺炎	男	440	5	0	1	157	0	0	0	1	0	0	7	45	190	29	5	0	0	
		女	287	4	0	0	123	1	1	0	0	0	0	8	16	96	17	1	0	0	0
c-1008	急性気管支炎	男	193	1	0	0	173	0	0	0	0	0	0	1	3	14	1	0	0	0	0
		女	161	0	0	0	147	0	0	0	0	0	0	2	3	7	2	0	0	0	0
c-1009	急性細気管支炎	男	17	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
		女	12	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
c-1010	アレルギー性鼻炎	男	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1011	慢性副鼻腔炎	男	6	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
c-1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	男	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1013	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	男	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1014	その他の上気道の疾患	男	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	2	1	0	0	0	0
		女	12	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6	0	0	3	1	0	0	0	0
c-1015	急性又は慢性と明示されない気管支炎	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1016	慢性閉塞性肺疾患	男	124	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	12	90	4	13	0	0	0
		女	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	13	1	1	0	0	0
c-1017	喘息	男	134	1	1	0	78	0	0	0	0	0	0	1	8	42	4	1	0	0	0
		女	148	1	1	0	63	8	0	0	0	0	0	0	4	68	3	0	0	0	0
c-1018	気管支拡張症	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
c-1019	じん肺(症)	男	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1020	間質性肺疾患	男	87	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4	72	0	8	0	0	0
		女	41	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	27	6	4	0	0	0
c-1021	気胸	男	88	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	21	0	0	0
		女	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	6	1	0	0
c-1022	その他の呼吸器系の疾患	男	310	34	6	2	7	0	2	0	3	0	0	21	34	147	27	27	0	0	0
		女	181	21	0	1	9	4	1	0	0	0	0	8	23	87	13	14	0	0	0
c-1104	口内炎及び関連疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1105	その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1106	胃潰瘍	男	40	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	30	0	0	0	0
		女	32	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	28	0	0	0	0
c-1107	十二指腸潰瘍	男	20	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	10	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
c-1109	胃炎及び十二指腸炎	男	13	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	9	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0
c-1110	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	男	37	9	0	0	5	0	1	0	1	0	0	0	4	1	16	0	0	0	0
		女	27	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	5	3	14	0	0	0	0
c-1111	虫垂の疾患	男	58	49	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		女	60	49	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0
c-1112	鼠径ヘルニア	男	84	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1113	その他のヘルニア	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	12	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
c-1114	クローン病	男	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳癌外科
c-1115	潰瘍性大腸炎	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
		女	6	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0
c-1116	腸閉塞	男	38	17	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0
		女	48	18	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	3	10	0	0
c-1117	過敏性腸症候群	男	11	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	21	0	0
		女	14	7	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
c-1118	便秘	男	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0
		女	16	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0
c-1119	裂肛及び痔瘻	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1120	その他の胃腸の疾患	男	152	35	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	3	110	0	0
		女	117	29	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7	75	0	0
c-1121	腫瘍の疾患	男	27	20	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0
		女	17	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	2	0	4	0	0
c-1122	アルコール性肝疾患	男	31	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	18	0	0
		女	8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0
c-1124	肝硬変(アルコール性のものを除く)	男	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0
		女	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	1	0
c-1125	その他の肝疾患	男	52	3	0	0	7	0	0	0	1	0	0	3	1	3	33	1	0
		女	42	2	0	0	8	1	0	1	0	0	0	1	1	3	25	0	0
c-1126	胆石症	男	136	47	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	5	60	0	0
		女	118	50	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	65	0	0
c-1127	胆のう炎	男	25	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	12	0	0
		女	16	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	10	0	0
c-1128	急性肺炎	男	29	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	25	0	0
		女	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0
c-1129	慢性肺炎	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1130	その他の肺炎	男	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
c-1131	その他の消化器系の疾患	男	121	29	1	0	8	0	0	0	1	0	0	0	6	5	68	0	0
		女	64	10	0	1	3	4	0	0	1	0	0	1	1	1	41	0	1
c-1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男	54	8	0	1	21	0	6	7	0	0	0	1	3	3	4	0	0
		女	45	5	0	1	18	4	0	5	0	0	1	0	3	6	1	0	1
c-1202	アトピー性皮膚炎	男	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1203	接触皮膚炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1204	その他の皮膚炎及び湿疹	男	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	11	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1206	じんま疹	男	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	4	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男	31	2	0	0	5	0	4	8	0	0	0	0	2	8	2	0	0
		女	35	2	0	1	4	0	2	15	0	0	0	2	4	1	4	0	0
c-1301	関節リウマチ	男	16	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	7	3	0	0
		女	15	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	8	0	0	0
c-1302	痛風	男	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-1303	その他の炎症性多発性関節障害	男	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0
c-1304	関節症	男	35	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	96	0	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0
c-1305	四肢の後天性変形	男	6	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	6	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
c-1306	膈内障	男	46	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	52	0	0	0	1	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1307	関節痛	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳癌外科	
c-1308	その他の関節障害	男	21	0	0	0	1	0	18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	17	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1310	乾燥症候群[シェーグレン症候群]	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1312	その他の全身性結合組織障害	男	34	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	7	1	6	1	0	0	0
		女	29	0	0	0	13	1	0	0	0	0	0	0	2	13	0	0	0	0
c-1313	脊椎障害(脊椎症を含む)	男	99	1	0	83	0	0	4	0	0	0	0	7	1	2	1	0	0	0
		女	47	2	0	34	0	0	3	1	0	0	0	3	2	0	2	0	0	0
c-1314	椎間板障害	男	15	0	0	12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1316	腰痛症及び坐骨神経痛	男	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		女	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1317	その他の背部痛	男	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1318	その他の脊柱障害	男	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	8	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
c-1319	軟部組織障害	男	26	0	0	2	4	0	6	2	0	0	0	3	3	3	3	0	0	0
		女	26	5	1	1	2	0	8	0	0	0	0	0	1	6	2	0	0	0
c-1320	肩の傷害<損傷>	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
c-1321	骨粗しょう症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
c-1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男	7	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1323	骨髓炎	男	7	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1324	若年性骨軟骨症<骨端症>	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男	25	0	0	1	0	0	23	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1402	ネフローゼ症候群	男	5	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1403	その他の糸球体疾患	男	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1404	腎尿管間質性疾患	男	45	3	0	0	7	0	0	0	25	0	0	1	3	2	4	0	0	0
		女	71	1	0	1	7	7	0	0	17	0	0	5	12	13	7	1	0	0
c-1405	慢性腎不全	男	45	1	2	0	0	0	1	1	1	0	0	2	23	6	6	2	0	0
		女	23	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	14	2	2	0	0	0
c-1408	その他の腎不全	男	53	4	5	1	1	0	1	0	6	0	0	2	16	8	9	0	0	0
		女	25	2	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	12	5	2	0	0	0
c-1407	尿路結石症	男	16	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	1	1	0	1	0	0	0
		女	15	0	0	0	0	2	0	0	7	0	0	3	2	0	1	0	0	0
c-1408	膀胱炎	男	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
		女	9	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-1409	その他の腎尿路系の疾患	男	116	8	0	3	15	0	1	0	15	0	0	8	24	21	21	0	0	0
		女	112	10	0	1	19	6	1	0	1	0	0	5	22	27	20	0	0	0
c-1410	前立腺肥大(症)	男	28	1	0	1	0	0	0	0	14	0	0	1	2	2	6	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1411	その他の男性生殖器の疾患	男	43	5	0	0	0	0	0	0	33	0	0	1	1	0	3	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1412	乳房の障害	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1413	卵管炎及び卵巣炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	1	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1415	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	25	1	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科		
c-1416	子宮内腫瘍	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	142	3	0	0	0	136	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	
c-1417	女性性器脱	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1418	卵巣、卵管及び子宮広範囲の非炎症性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	18	1	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1419	月経障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1422	その他の女性生殖系の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	172	0	0	0	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1501	自然流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
		女	14	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1502	医学的人工流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	15	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1503	その他の流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	39	1	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1504	妊婦高血圧症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	29	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1505	妊婦早期の出血(切迫流産を含む)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	28	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1506	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	17	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1507	その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに予想される分娩の問題	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	231	0	0	0	1	230	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1508	早産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1509	分娩後出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1510	単胎自然分娩	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	165	0	0	0	0	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1511	その他の妊婦及び分娩の障害及び合併症	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	165	0	0	0	1	164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1512	主として産じよに関連する合併症及びその他の産科的病態、他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
c-1601	妊婦期間及び胎児発育に関連する障害	男	62	0	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	69	0	0	0	66	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1602	出産外傷	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1603	周産期に特徴的な呼吸障害及び心血管障害	男	75	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	60	0	0	0	59	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1604	周産期に特徴的な感染症	男	21	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	23	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1805	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	男	54	0	0	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	46	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1606	その他の周産期に発生した病態	男	187	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	172	0	0	0	171	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1702	その他の神経系の先天奇形	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1703	心臓の先天奇形	男	36	0	0	0	32	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
		女	39	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	9	0	1	0	0	0	0
c-1704	その他の循環器系の先天奇形	男	8	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1705	唇裂及び口蓋裂	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1707	その他の消化器系の先天奇形	男	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-1709	その他の泌尿器系・生殖器系の先天奇形	男	6	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科	
c-1713	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	男	7	0	1	1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1714	その他の先天奇形	男	7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1715	染色体異常、他に分類されないもの	男	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1801	腹痛及び骨盤痛	男	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	16	2	0	0	1	9	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0
c-1802	めまい	男	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	3	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	0
c-1803	不明熱	男	30	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	0
		女	32	1	0	0	17	4	0	0	0	0	0	2	1	3	4	0	0	0
c-1804	頭痛	男	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		女	9	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
c-1805	老衰	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1806	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	391	58	1	6	119	0	5	0	17	0	5	28	32	75	42	1	0	0
		女	334	50	1	5	93	26	4	0	0	0	4	15	41	52	43	0	0	0
c-1901	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	男	21	9	1	9	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	2	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1902	頭部、胸部及び骨盤の骨折(脊髄を含む)	男	149	56	0	40	0	0	40	0	1	0	0	0	1	4	4	3	0	0
		女	81	20	0	22	0	0	25	0	1	0	0	0	3	3	4	3	0	0
c-1903	大腿骨の骨折	男	56	1	0	1	1	0	48	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0
		女	147	4	0	5	0	1	132	1	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0
c-1904	その他の四肢の骨折	男	205	23	0	9	0	0	167	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	0
		女	147	13	0	7	0	0	120	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	0
c-1905	多部位の骨折	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1906	明示された部位及び多部位の脱臼、脱臼及びストレイン	男	309	31	1	4	1	0	270	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
		女	282	17	0	0	1	263	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
c-1907	眼球及び眼窩の損傷	男	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1908	頭蓋内損傷	男	84	14	3	58	4	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		女	36	10	0	21	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
c-1909	その他の内臓の損傷	男	80	42	0	11	2	0	7	0	7	0	0	0	2	1	2	6	0	0
		女	29	21	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0
c-1910	明示された部位及び多部位の挫滅損傷及び外傷性切断	男	14	6	0	1	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1911	その他の明示された部位、部位不明及び多部位の損傷	男	297	153	13	29	7	0	75	0	5	0	0	1	3	1	1	9	0	0
		女	161	66	0	15	2	3	73	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
c-1912	自然開口部からの異物侵入の作用	男	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0
		女	5	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
c-1913	熱傷及び腐食	男	17	12	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1914	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	男	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0
		女	19	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	5	11	0	0	0	0
c-1915	薬用を主としない物質の毒作用	男	18	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0
		女	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
c-1916	虐待症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1917	その他及び詳細不明の外因の作用	男	59	2	0	1	29	0	1	0	0	0	0	8	2	7	9	0	0	0
		女	28	3	0	1	17	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	0	0	0
c-1918	外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	男	57	19	1	2	6	0	8	0	8	0	0	1	7	3	2	0	0	0
		女	53	10	0	3	4	15	9	0	1	0	0	0	7	2	2	0	0	0
c-1919	損傷、中毒及びその他の外因による影響の結果・後遺症	男	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
c-2104	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのあるその他の者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	消化器・一般外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科	乳腺外科		
c-2106	分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2107	その他の生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2110	特定の処置(骨の補てつを除く)及び保健ケアのための保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2112	その他の理由による保健サービスの利用者	男	52	18	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	9	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	28	0	0	1	1	0	0
0	不明	男	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	3	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 図書蔵書状況

蔵書状況(2016年12月31日現在)

	図書	視聴覚資料	計
外国	47冊	0巻	47
国内	1025冊	93巻	1118
合計	1072冊	93巻	1165

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	20タイトル
国内雑誌	67タイトル
計	87タイトル

